

昭和9年(1934)設立

財務省許可 社団法人 昭和経済会

# 昭和経済

Manager Association of Japan

第61巻1号 22年1月

国会図書館永久保存

政権交代と世の中の変化  
[時局論壇] 政府、リスク管理手法磨け  
[時局論壇] 倫理や社会起業重視へ舵

中谷 元  
林 良造  
クリスティーナ・ブローマン



港の見える丘

昭和経済 22-1月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可(毎月1回1日発行)  
昭和25年10月19日 日本国有郵便特別取扱承認雑誌第1797号

**Showa Economic Study Association**  
**企業家・経営者団体**

財務省 本省許可

社団法人 **昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

<http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail [info@showa-ec.or.jp](mailto:info@showa-ec.or.jp)

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以って、文化科学への触発は関心を以って発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知をもってこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情懷をもつて、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

社団法人 昭和経済会

### 社団法人 昭和経済会の案内

#### 創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」を目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

#### 主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力の定期講演会
- ② 内外の経済、政治、文化、学術の発展
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

## ◇◇◇◇◇ 新春一月号・目次 ◇◇◇◇◇

### 巻頭言

佐々木誠吾(2)

物事、難しいことはない……井浦 康之(34)

### 「時局論壇」

倫理や社会起業重視へ舵

……クリスティーナ・アメーザン(10)

### 人生闊歩

「アメリカは

スピーチの国だから」……ランゴ岩本(41)

### 「時局論壇」

政府、リスク管理手法磨け……林 良造(16)

### 昭経俳壇

……遠藤 蘆穂(46)

### 後記随想

……佐々木誠吾(50)

政権交代と世の中の変化……中谷 元(22)

### 表紙絵のことは

……関根 常雄(73)

### わが回想記

堀江 忠男(30)

虎・とら・トラ

野澤

亭(32)

### 謹賀広告

(76)

巻頭言 佐々木誠吾

謹賀新年

おほらかに隈なくわたる初空に富士の嶺<sup>か</sup>

高く雪をいできて

今年も会員各位のご健康と、弥栄を祈念申し

上げます。

元旦

\*

鳩山内閣で、国民の熱い視線がそがれてい

る大きな問題の一つは、内閣府に新設された行

政刷新会議が行っている、国と地方の「事業の

仕分け」と、投入されている「予算の点検」で

あります。

即ち、国民の税金が一体何処に、どのように

使われているか、また、それは正しく、適正に

使われているかどうかであつて、今まで国民が

全く知ることの出来なかつた、いわば不問の領

域であります。それが鳩山政権下で今回、昇事

に白日の下にさらされてきたと云ふことであ

ります。そのことは、国民の政治意識の覚醒に

一大インパクトを与え、且つ仕分け作業の模様

が一般に公開されて、国民の目から見た現場の

模様は衝撃的であります。

古くから民衆は「苛斂誅求」、過酷な税金の

取立てになやまされてきています。しかし取り

立てた税金が誰にどのように使われているか

といった問題に触れるようなことは全くとい

つていほど行われてきませんでした。使われ

る先は決まつていて動かしかつたものと、素材

に飲み込んでいました。

文明開化、近代化によつて特に一応の国家体

制が整つた明治以降、永きにわたつて政治家と

官僚の「支配領域」に国民は無関心であつたし、

もともとそれが正しいものと理解し、その言い

なりになつてきたものであります。そうした体

制を維持してきたことは、時の政治家や、官僚

だけに責任を負ふことはできません。国民の

責任にも負うところが多くあると認識しなけ

ればなりません。今回、その領域に初めて切り

込んでいつた鳩山内閣は、正に晴天の霹靂に写

つたのであります。聖域に切り込んだ世紀の一

大改革であるといえます。

政治を真に国民の手に戻す、この一事を以て

して万事に及ぼすものとし、公正にして清廉明

白な革命運動と手法によるものであり、これが

成功すれば、日本政治史上、偉業的改革をしる

すものといつて過言ではありません。この先も、

この理念と姿勢を是非とも貫徹していつても

らいたいと思います。

都内某所に会場が敷設され、連日のように活

発な論議が展開され、その様子が公開されてま

した。今までは利害関係者のみで従来踏襲が、前

例に倣つてどか、水増しして、国民の目には明

らかにされずに、極限すれば闇から闇に行われ

ていたものでしょう。しかし今回は一部でしか

ありませんが、その膨大な複雑な内部が、面

的な手法と形で、明々白々な様子が、国民の前

に示されました。

予算編成に先立ち、今各省庁の概算要求が、

不要なものが、不急であるかを判定する「事業

の仕分け」が始まりました。税金を使って国が

やるべき仕事なのかどうか、民間がやつていく

べき仕事かどうか。また同時に、国がやるにし

ても要求する予算が適正か、不当なものを判断

する「仕分け」の検討が始まりました。そのプ

ロセスを見ていると、国民にとつて彼らの職責

は、大きく、意義あるものであります。その

作業は膨大なから、最大限の能力を尽しよそ

奮闘している、世の大方の人たちは喝采を送

つていることでしょう。

仕分作業を進める国会議員と市民代表、もし

て答弁する担当役人、職員たちのやりとりは追

真に充ちています。

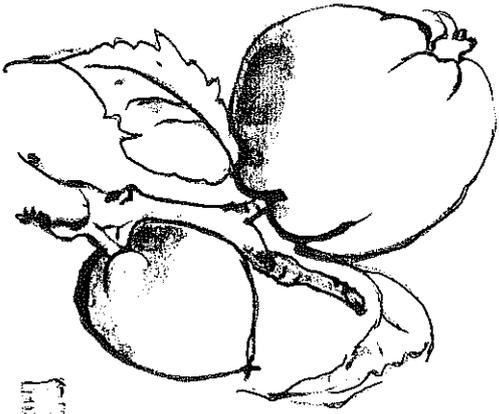
質問に対して答へにもならない杜撰な答弁、

国益を守るのではなく、ひたすら自分たちの利権を守死することに懸命な公務員の間接像も、驚くばかりに集中的に見ることができました。要は、国民が納めた税金の使い道であります。いんちき臭い予算の要求、水増しした要求、実体的ない脆弱な要求、次々に仕分けによって暴かれる内容、驚くべきことに、これは正に氷山の一角であります。

野党に下った幹部が、白昼公然と行われる公開処刑といった馬鹿な発言をしていましたが、何という体たらくな議員でしょうか。ろくろく責任も果たさずに、自分たちが犯してきた国民に対する合法的犯罪の反省なき擁護であり、国民に対する冒濫を、正当化するに等しいとしかいようがありません。状況分析すら出来ず、真偽の区別の判断も出来ないような、頭脳とヒ状態の人間としか言いようがありません。国民の信託を持って働くべき国会議員のあるまじき言動であります。信じがたき時代錯誤の甚だ

物に抵抗を試みることでしよう。怖れることなぐ、くじけることなく、攻撃の手を緩めないで欲しいと思います。こうした作業は、時間を掛けた長い研究と調査と、検討の結果こうした、不当な状況を一日も早く糾弾し、「国民のための公正な政治と行政」を取り戻して貰いたいと思っています。(十二月一日記)

しき証拠であります。自民党政権時代にも、こうした改革をやるべきだったのに、怠ってきた重大な失敗です。ひょっとすると自民党政権そのものが、そうした悪弊の呪文にとりつかれて身動きできない状態になってしまったのでしよう。そうだとすればもはや国民の信託を得る資格はありませんし、全てにおいて自浄作用を失い、統治能力を失った政党となってしまっています。大臣が追い詰められて自殺したり、顔にかいバンソウ膏を貼った唐菱木・大臣の記者会見、酒酔い居眠り大臣の記者会見など、あの時は国民も事態の深刻さを知らずに笑ってすごしていました。今、私たちは政権交代の意義を、具体的に、実際の活動の中に見ることが出来ました。旧政治家や官僚にとつては、長年にわたり営々として築き上げられてきた蓄財であり、既得権益であります。たやすく手放すはずありません。執



作品 関根常雄

### \* 孔子の教え

急激に膨張し発展しつづける中国に、今、孔子の教えを学び普及させる動きが大きく広がっています。民衆から自然発生的に出てくるのか、それとも国策として儒教思想を広めようとしているのか、はつきりしていません。孔子、孟子の教えは家庭と社会規範を遵守していく根本的な教育思想であり、中国では最もまで敬遠されていた時もありました。

ダイナミックな経済発展の裏に、十三億の国民のごく僅かな民衆が、高額な所得を得、資産を持つ一方で、大多数の国民が低所得と貧乏におかれています。構造的に大きな問題として表面化してきている。ダイナミックな展開をする経済の裏で、こうした貧富の隔差がひろがりつつあります。

同時に、民衆間の対立が表立ってきました。モンゴルの始め、各省に散在する少数民族の民族意識の抬頭であります。富を勝ち取ることで

する「仁」であります。

第二は家族間のみならず、広く人間社会において伝統的な、階級的な秩序の根幹であり、それを確立しようとする教え「礼」であります。人間社会は「仁」の精神によって結ばれ、「礼」の確立によって秩序づけられなければならない

いと論語で孔子は言っています。

市場原理と競争社会を導入し、国威の基本に猛烈な経済発展をどげる今の中国社会に、前述のような社会的きしみが随所に惹起されつつある時は、自然発生的であるかどうかは別に、儒教思想を民衆の間に敬愛させてゆくことで、大きな意味をもつてきます。

今の中国には、驚異的な経済発展の裏に、いろいろな問題が表面化してきています。これを解決してゆくには、現実的な政策の総取りと、教育的な学習指導が挙げられます。つまり短期的処方箋、長期的対策といった二面作戦が必要となってきました。

社会的意識が芽生えてくること、同時に格差の勢力抬頭をいかに抑えて今の社会体制の中にとりこんでゆくかが問題であります。

一方、孔子の教えと教育が見直されて普及しはじめている理由に経済中心主義に、人間性重視を考える思想が生まれてきたことも社会的背景としてあります。主として余裕のある富裕層に出て来ているもので、経済的恩恵に芽生えてきた余裕であります。子供に高度な教育をさせて、社会で指導層に置いておきたいという両親としての願望であります。

儒教思想が民衆に普及しはじめたこの傾向は、今の中国政府にとっても好ましい結果を齎すと考えているに違いありません。

もとより孔子の思想は、肉親間のあたたかい関係を基本にしています。

第一は自然な愛情から出発した人間同士の親愛、そこから調和的な人間愛の精神を養おうと

私は学生時代から論語、孟子の思想を学んできました。特に高等学院時代に、漢文担当の船津富彦教授がいてユニークな勉強手法を以つて人気を博していたことがあります。その拙劣な知識を以て、本誌でもたびたび取り上げて、人生に臨んで自己研磨に努めてきた思いが強くあります。論語を流暢に語る時、何やら充実した人間育成に役立つような気がしてくるのです。家族愛と人間性に立った教えで、普遍性を持つたものだと思っております。むしろ、そのことが今、中国で再認識され、多くの面で取り上げられてきているといった社会状況に、むしろ解決すべき、重要且つ根深い問題が滞留しているのではないかと思います。

従って一方で、この人間の基本的な思想を、時代的為政によって作為的に、都合主義的に利用されることに大きな違和感を持っていま

とか排除されていたこともあつたのでしよう。それは、私の思いすごしでしょうか。しかし中国で、中国の社会で、家庭で、儒教の教えが見直されて尊ばれる傾向になつてきたといふことは、歓迎すべきことではないでしょうか。

孔子の教えのなかで、学生時代から好んで暗記している文章があります。暗記はしておりませんが、果たして自分自身にとつて身につけた教養として刻み込まれているかどうかは、残念ながら全く別問題であります。しかし無意識のうち、これまでの人生で大なり小なり影響を及ぼしていることは事実であります。曰く

我十五にして学に志し、三十にして立つ、四十にして迷わず、五十にして天命を知る、六十にして耳順い、七十にして己の欲するところに従いて矩を越えず

これは美に明快であり、儼れた人生訓であります。七十二歳まで生きた孔子が、自分の人生

えは北極星が動かすに自分の場所に居て、沢山の星がその方向に向かつて取り巻いているよくなるものである)。

うなるものである)。

粗末なめしを食へ、腕をまげてそれ枕とする。楽しみはそのような貧しい簡素な暮らしのなかにも、やはり自然にあるものである。不正な方法で金持ちになり、自分が高くなるのは、私にとつては浮雲のようなはかないものである。うらやましいものとは思わないことである)。

朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり。

利によりて行へば、怨多し。

(利益本位ですると、うらまれる)。

飯疏食飲水、曲肱而枕之、樂亦在其中哉。不義而富且貴、於我如浮雲。

を振り返つて感慨深く回想したことは、これあります。思い出すままに孔子の言つたことを一部申し上げてみます。

學んで時に此れを習ふ、亦説ばしからずや。朋遠方より來たる、亦樂しからずや。人知らずしていきどおらず、亦君子ならずや。

巧言令色、鮮やかな仁。

君子は食飽くことを求むる無く、居安きを求むる無し。事に敏にして言に慎み、有道に就きて正す。学を好むと謂ふべきのみ。

政を為すに徳を以てすれば、たとへば北辰のどのところに居て、衆星のこれに共ぶが如し。

(政治をするのに道徳によつていけば、たと

たるべき重要な資格である)。

し。(即ち温故知新のことばである。人の師故きを温めて新しきを知れば、以て師たるべくなるものである)。

## 〔時局論壇〕

### 倫理や社会起業重視へ舵

一橋大学教授

クリスティーナ・  
アメリジャン



ビジネススクール（経営大学院）は、世界的

な金融危機に何らかの責任があるのだろうか。確かに、不適切なリスクテイクで世界の金融システムを壊滅寸前に追い込んだ銀行家は、経営学修士（MBA）を持っていた。もの見事に失敗したモデルを作った研究者は、ビジネススクールの教授だった。そして巨額の報酬、無責任な規制緩和、目先の利益の偏重は、多くのビジネススクールが経済運営の最善の方法として推奨する資本主義制度の落とし子である。

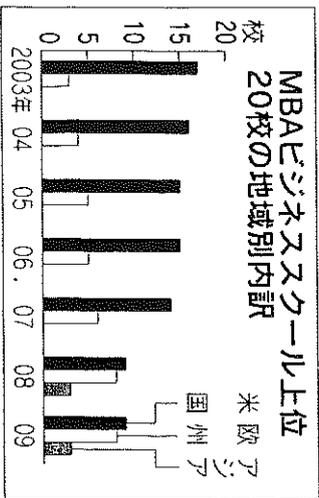
とはいえ、危機を理由にMBAの評判が落ち込んだとしても、ビジネススクール自体の人気は一向に衰えていない。MBAの学位はいまでも非常に人気が高い。

ビジネススクールは、今回の金融危機にさまざまな対応してきた。常に新しい研究テーマを探している教授陣は、さっそく行動決定、コ

ーポルトガパナンス（企業統治）、規制システムなどの面から危機の原因と対策の研究に着手。危機を詳細に分析し、未来の経営者が同じ過ちを繰り返さないよう教訓を学ぶための新たな講座も設けられた。また倫理規範や企業士の学生が「倫理規範にのっとり責任を持つて価値を創造する」という誓約書に自主的に署名して注目を集めた。

こうした方向に舵（かじ）を切る傾向が本質的なのかどうか、現時点では判断しがたい。だがこれらの変化が根付くかどうかはともかく、危機への対応ぶりにばかり注意を払っている。実は十年前から、ビジネススクールの教育は世界中で大きく変わりつつあり、金融危機はその変化を加速させただけなのである。

◇◇◇



最も重要な変化は、ビジネススクール教育のグローバル化である。ビジネススクールは、もはや米国の専売特許ではない。英フラインツヤル・タイムズ（FT）紙による今年のビジネススクールランキングでは上位二十校中十一校までが米国以外の学校だった（図）

米国外の学校が躍進

また英エコノミスト誌のランキングでは、全日  
制MBAプログラムの最上位二校はスペイン  
のIESEとスイスのIMDという欧州勢で  
ある。

アジア勢の台頭も注目される。アジアでは自  
国経済への貢献だけでなく自国企業を率い世  
界で活躍する経営者を育成する狙いで、政府も  
企業も積極的に自国のビジネススクールを支  
援する。先に挙げたFTのランキングでは、香  
港科技大学、中国の中欧国際工商学院、そし  
てインディアンスクール・オブ・ビジネスと  
いう三つのアジアの学校がベスト10に入っ  
た。

もともと、米国の学校が、アジアか欧州かを  
分類するのは容易ではなくなってきた。教授陣  
の出身国や教育を受けた国がさまざま、ちが  
う大陸からやってくることも珍しくない。欧米  
の主力校の博士課程では中国、韓国、インド出  
身の学生が目立ち、教授職に就く者も増える一

が掲載されがどうかで評価される。

金融危機後に顕著になった第三の変化は、ビ

ジネススクールで社会起業が重視されるよう  
になったことだ。社会起業とは、企業経営のメ  
キルを生かして貧困や教育、人権、環境などの  
問題に取り組み、よりよい世界をめざす試みを  
意味する。目を見張るのは、多くのビジネス  
スクールが社会問題や環境問題に取り組みため  
の起業を学生に奨励し、その訓練プログラムを  
用意して、社会企業家精神をほぐむ努力をし  
ていることだ。例えばカリフォルニア大学バ

ークレイ校のハースビジネススクールなどが共  
催する社会起業コンテストには世界の一流校  
の学生が毎年応募する。今年も、牛ふんからレ  
ンガを製造する事業を考案したインドネシア  
のチーム、偽造薬問題の解決策を提案した米国  
のチームなどが表彰された。

そして第四の変化として、ビジネススクールの  
教授法が大きく変わった。十年ほど前まで主

方、アジアの学校は欧米のトップクラスの学者  
を競って招へいしている。二重学位制を採用す  
る学校も増え、たとえば入学した学校と留学先  
の両方で学位が認定されるようになった。

ビジネススクール教育にみられる第二の重  
要な変化は、研究に力を入れるようになったこ  
とだ。米国の有力校、例えばスタンフォード大  
学、コロンビア大学、シカゴ大学のビジネスク  
ールは、経済学、心理学、社会学の先端的な研  
究で古くから知られている。またハーバード大  
学ビジネススクールは、企業経営者にすぐに役立  
つ知識の創出でかねて評価が高い。

ランクの低いビジネススクールや米国以外  
の国のビジネススクールではビジネススキル  
の習得やトレーニングが中心で、発想法などは  
ほとんど教えていなかったが、最近この傾向は  
様変わりし、研究の生産性や質を意識するよう  
になっている。さらに今日では教授陣も、経営  
学や社会学の分野で世界の一流学術誌に論文

流だったケーススタディ(事例研究)にかわり、  
現在ではフイールドサーベイ、実験手法、ウェ  
ブを使ったシミュレーション、ゲーム、人材評  
価やコーチングなどが採り入れられている。こ  
うした変化の背景にあるのは、ビジネススクー  
ルの教育は全人格教育であるべきだという考  
え方だ。自己認識能力や対人能力を高め、経営  
にとどまらず世界が抱える問題の知識を深め、  
能力を実地に試す機会を与えることが重視さ  
れるようになった。

例えばスタンフォード大学ビジネススクー  
ルでは、初年度にクリティカルシンキング(論  
理的思考力)のセミナーへの出席を義務づけ、  
ペンシルベニア大学ウォートン校は、南極大陸  
や米海軍基地などで実施されるリーダーシップ  
能力開発プログラムに学生を送り込む。

こうした本質的な変化を前に、日本のビジネ  
ススクールは驚くほど影が薄い。グローバル

ンキングに姿を見せず、一流校の博士課程には日本人学生がほとんどいない、日本人研究者による論文が世界の一流専門誌に掲載されることはまれで、日本企業や経済の研究もめったに見かけない。的を射ているかどうかは定かでないが、日本人学生は消極的で学習意欲に乏しく英語でのコミュニケーション能力が低い、と評価されている。中国人や韓国人学生と比較すると、とりわけそうした点が目立つ。

日本は特異な国で、世界の動向と無縁なのか。確かに日本ではビジネスは今も日本語で、大企業では終身雇用が主流である。大学を出たばかりの多くの若者にとつて、起業というのは現実味のある選択肢とはいえない。日本は世界の経営学教育から隔絶されてきたのは、もともとない理由があるのかもしれない。

だが世界のMBA教育にうかがわれる新たな潮流を考えると、ビジネススクールはさまざまな意味で日本に深くかかわってくるようになるだろう。

ビジネススクールが世界に浸透し、欧州でもアジアでも、先進国でも発展途上国でもMBAが大勢誕生しているとなれば、日本企業でもMBAと一緒に仕事をする機会が増えることになる。MBAは社員にも取引先にもいるだろうし、管理職にも提携先にも顧客にも取引先にもいるだろう。日本企業はMBAを相手に交渉しなければならぬし、MBAから資金調達しなければならぬし、MBAに売り込まなければならぬし、そのとき、日本企業が「共通語」を話せなくてはならない。

(カルフォルニア大バークレー校博士。専門は組織行動論)

  
Christina L Ahmadjian

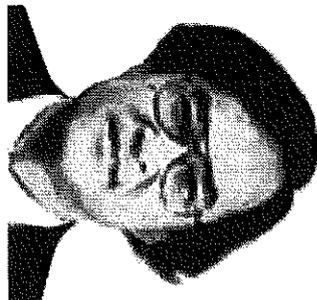
なる。次第に結びつきを深める世界で競争する以上、主要校が力を入れているグローバルなリーダーシップ育成は、日本企業にとっても重要性を増してくる。MBAプログラムで重んじられるようになつた、対人能力や価値観や自己認識といった全人格教育は、実は人格教育や人間関係を大切にしてきた日本企業の伝統と相通じるものだ。また日本企業には、会社は株主だけでなく地域社会に奉仕すべきだという考え方が根付き、社会起業はまさになじみ深い概念といえよう。

日本の企業や大学が経営学教育の世界的潮流から取り残されるのは、世界にも損失である。日本企業は、環境技術、顧客サービス、品質管理、サプライチェーン・マネジメントなどの分野で多くを世界に教えてきた。新たな経済モデルが模索される今日、日本型資本主義は、その長所短所を含め、新しいヒントを示すことができるだろう。

## 〔時局論壇〕

### 政府、リスク管理手法磨け

東京大学教授  
林 良造



際テロに備えどの程度の程度のコストをかけるべきか。

政府の役割とは、自然や人為的な大規模な破壊による被害を予防・軽減し、経済の長期的停滞や破局を防いで持続的發展を可能にし、新たな技術の及ぼす影響に留意しつつその恩恵を国民が最大限享受できるようにすることだ。だが政府が直面する問題は多様化・複雑化し、政府が機能不全を起し信頼性を揺るがせるケースが増えている。そこで政府もリスク管理の視点を導入、リスクを常に監視してなるべく同じ尺度で統合的に管理し、最新の手法で効率的に対応することが望まれる。

各国は様々な試みを行っている。特に英国では、財政赤字問題に加え、BSE（牛海綿状脳症）やコンピュータ誤作動が心配された二〇〇〇年問題への政府の対応に不信が高まり、当時のブレア首相の指示で二〇〇二年にリスク

民間に倣い、統合的に

一九八〇年代以降、米国で大型の企業破綻が相次いだ。破綻の直接の原因は様々であったが、それを契機にリスク管理に対する関心が急速に高まった。そうした流れの中、コーポレートガバナンス（企業統治）や内部統制、さらには様々なリスクを共通の尺度で評価する統合リスク管理（ERM）などに関し、企業経営者が適切にリスクを管理することを担保すべく、制度的な整備も進められた。

この背景には急速なグローバル化や技術進歩に対し、従来のやり方や組織では十分対応できなくなつたことがあるが、同様の影響は、国家や政府機構でも生じている。

例えば技術進歩にもかかわらず副作用を恐れるあまり新薬が承認されにくい問題が起きている。温暖化ガス削減やみくもに高い目標を設定すれば経済成長は阻害されかねない。国

研究報告書がまとめられた。

特に強調されたのはコミュニケーションの重要性だ。政府の最も重要な役割は、直面するリスクに対する最善の対策を国民自らを選び、政府が行う措置を的確に判断できるよう、偏りのない情報を提供することだという。それを左に右するのは政府の信頼度いかにあり、このため行政機関の強力なガバナンスと透明性が重要であるとされた。

リスクの様相変化に伴う政府の機能不全と信頼性の喪失は日本も例外ではない。一九八〇年代までは高い評価を得ていた日本の政策決定プロセスは、一九九〇年代のバブル崩壊以降の長期不況で評価が一転。国民の信頼は急速に失われ、規制改革の遅れや財政赤字問題の深刻化、不明朗な政策の優先付け、新たに出現した技術への対応、行政機関のさまざまな不祥事など広範囲にわたり問題が指摘された。

そうした信頼回復の手がかりを考える上で、

民間企業で発達してきたリスク管理をめぐる

仕組みや英国など諸外国での公的機関のリス

ク管理の取り組みが参考になる。

まず統合的リスク管理を効果的に働かせる

には、事業執行の最高責任者が、ステークホル

ダー（関係者）の利益最大化に向け責任ある判

断をする制度になっているか、また組織全体が

最高責任者の意思を実現するよう行動するこ

とを保証しているか、という基本設計が前提と

なる。

政府では、企業の場合のように「企業価値の

最大化」というように単純化はできない。また

国民の一次的な意思や権力者の恣意（しい）性

を排除するための、政府機構内で相互にけん制

する仕組みが組み込まれている。国民の意思の

集約方法とその政策としての実行の担保に関

しては、さまざまなパターンがある。

小泉郵政選挙以前の日本の国政選挙では、有

権者が政権政党の政策を明確に選択するとい

ようにな仕組みの導入や積極的な人事交流、内部

統制の有効性を第三者が確認する仕組みの導

う傾向は薄かった。したがって政策の企画立案

では、執行機関でもある縦割り型省庁の官僚機

構が果たす割合が大きかった。特に立法プロセ

スでは、担当省庁が、主要利害関係者を集めた

審議での答申、強力な党義拘束を伴う与党内の

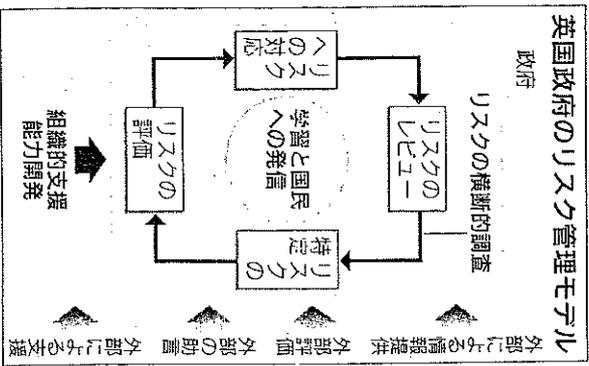
合意、閣議決定といういずれも“全会一致”

が原則の三層のコンセンサス構造の下でぎり

ぎりの調整を行い、内閣を通じ実質的最終案を

提出する。この結果、首相が目に見える形で指

導力を発揮する余地は限られていた。



人などが不可欠である。

◇◇◇

政府の統合的リスク管理を働かせるための

第二の重要な要素は、通常の政策決定過程の中

で、国家全体のリスクを不断に見直し、リスク

の蓋然（がいぜん）性・被害などを科学的に分

析・評価し、省庁横断的な効率的資源配分と政

策評価に裏打ちされた合理的な処理方針を選

ぶことだ。

国家全体の直面するリスクに対する認識と

対応は施政方針演説や財政演説などで示され

る。だが実質的な検討は、一部を除き個々の省

庁に委ねられ、標準化されておらず、他省庁の

ベストプラクティス（最良の慣行）を参考に改

善が図られることは少ない。

米国の国家安全保障会議事務局のように常

時リスクを発見・評価し、各省を指揮して責任

を持って対応方針を決定する能力のある機関

を設け、首相の統合的な判断を支える体制を整

スク対応能力が国家のリスク管理能力を左右するといつても過言ではない。その強化に向け、国民へのコミュニケーション能力を高め、海外の知見も取り入れながら官民で共有を図り、ベストプラクティスを浸透させる必要がある。それには、省庁横断的な人事異動や官民の人事交流の活発化や、政府内外の教育・研修プログラムの拡充といった工夫が求められよう。

(元・経済産業省経済産業政策局長)

本

長

備する必要がある。その成否は適切な人材の確保にあり、長期的には、専門性や独立性を備え、政策決定の基本要素に習熟した人材が育つ環境をつくるべきである。予算編成過程を通じた、政府による政策資源の効率的な配分とマクロ的な規律は国家の最も重要な機能である。だがわが国の予算編成過程では、シリングなどによる一律削減方式が一般化し、個々のプロジェクトの効率性やリスク間の政策資源の分配の合理性が保証されず、その中で財政赤字が急速に拡大した。これをリスク管理の視点でとらえ直せば、信頼回復に向け、分野間の優先度の決定、マクロ的規律との調整、個々のプログラムにおける効率的な追求など、編成課程を国民が見えるように改革することが基本となる。その上で、これらの点での透明性・客観性が増すよう公会計制度を見直し、定量的な政策評価を徹底するとともに決算プロセスを厳格化することが重要

だ。国家によるリスクへの対応のもう一つの形は規制だ。中でも医療産業分野は世界の各国で公的機関のリスク管理の代表例であり、規制のもたらす利益とコストを反映する制度設計と理念的論争にとどまらず、具体的ターゲットに基づいた運用が求められる。このためレギュラトリサイエンス(規制科学)に基づく合理的・科学的基準づくり、それを継続評価し迅速にフィードバックして市場の価格シグナルとインセンティブ(誘因)を最大限活用できる保険などの制度設計が必要になる。また整理された研修プログラムを経た専門的知識を持った人員の適切な配置、制度、政府への信頼確保に向けた情報の積極的公開、プロセスの透明化なども望まれる。

◇◇◇  
これらの政府のリスク管理で、官僚機構が実質的に担う部分は極めて大きく、官僚機構の

## 政権交代と世の中の変化

元・防衛庁長官  
衆議院議員

中谷 元



杉田一真(主任研究員) お待たせしました。定刻六時となりましたので、今年最後の講演会を開催いたします。最初に、佐々木理事からご挨拶を申し上げます。

佐々木裕介(理事) 本日は、ご多忙のところ、お集まり頂きありがとうございます。

中谷先生は高知出身の自民党の衆議院議員で一九九一年の初当選以来、当選回数を重ね、第一次、小泉内閣で、防衛大臣を務められた先生でいらっしゃいます。防衛大学をご卒業後、陸上自衛隊に入隊し、日本の防衛政策及び外交の日本のアトランティックな存在であります。

私は中谷先生と四年前から勉強会で御一緒させて頂き、幾多の政策について議論をさせて頂きました。前回の選挙では、自民党が苦戦する中でも得票率が極めて高く、現在五十二歳で自民党の中樞を担われる先生です。

昨今の普天間基地問題などをクースに、自民党及び民主党の政策運営について、ざつとばら

んなお話を伺いたく思います。

中谷講師、皆さん今晚は。中谷元でございます。先づ昭和九年から七十五年も続いております社団法人昭和経済会に講師としてお招き頂きまして敬意を表し、感謝と同時に光榮に存じます。

今日はいろいろな話をさせて頂きませんが、頭なかは、もう自民党を出まして、無責任なのではないかという御意見もありますので、今日には皆さまから是非貴重な御意見も承って、これからも勉強していきたいと云う気持ちで参つた次第でございます。

で、本日、こうしてお話をさせて頂く機会もできたわけでありませう。

先づ自己紹介をさせて頂きます。出身は土佐の高知であります。明治維新とか、自由民権運動の震源地、發祥の地と申せるところであります。大政治家の吉田茂首相が出たところでありませう。県民性について申せば、非常に自由な発想、自由な行動ができるということ、非常に歴史の節目になる出来事が起きて、その際にも突拍子もないことをして、活躍、活動してきた人たちが多くいることが特徴であります。何故そうしたことが契機になったかといえます。歴史的江戸末期に「山内一豊」という人がいて、関ヶ原の合戦で戦った人が土佐の藩主になりました。この人が非常に教育熱心で、朱子学などを勉強した人であります。その結果、明治の末期に、そうした人材が沢山輩出されて参りました。

しかし、土佐の高知は基本的には流浪の地であるとの議論をいたしております。そうした関係

あります。政治的な犯罪者が多く流されて来まして、非常に能力はあるけれども、実現しなかつたのであります。遠くから都を見下ろしながら、ふつふつとした心情をもっておりまして、幕末の時のエネルギ―は、世の中を変えてゆくうとするものであります。そういう思想が、現在にもつながつていると云うことであります。私は自由民主党でありまして、内状には決して満足していません。現在に至っております。

高校を出たあと、防衛大学校に入りました。そして、陸上自衛隊の幹部として五年間務めました。もともと政治家になりたいという希望を持ちながらも、政治家になるには先づ「安全保障」を勉強してみたいと思ひ、防衛大学校に行きました。皆さんは、自衛隊を経験された方は余りないと思いますが、とにかく規則づくめであります。朝六時にラッパが鳴ります。夏でも、冬でも、

けであります。

そういう意味からしますと、この組織というのは、上が第一であります。上が判断をあやまらずと、全て皆んなが迷惑をこうむつてゆくわけでありまして。そういう意味からしますと、状況判断が間違わないように、日々の訓練で事を成し遂げることであります。「勤」という言葉があります。何回も何回も繰り返しているうちに、それが身について世の中が全体にこういう具合になっていくということが判つてきます。何度も挑戦して、最初のうちは失敗は許されますが、何度も繰り返すことは許されませぬ。そういう意味では、防衛大学校について良かったなあと思つています。

忘れられないひと言があります。それは山本五十六の「人を動かすポイント」ということであります。山本五十六氏は、こう云いました。「やつて見せ、云つて聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かさず」ということであります。

上半身裸かで、五分以内に表に飛び出して行きます。寝ていたベッドをちゃんと整頓して、毛布をきちっとたたんで、それができていないと、外から帰つてきた時に、ベッドや毛布が外に放り出されているという仕末を受けたり、とにかく厳しい規則づくめであります。夜の十時には電気が消え、消灯であります。良かった点があります。時間の使い方が、非常にうまくなりました。極めて短時間に、多くのことができるようになりました。

それから「上意下達」ということについてです。これは上からの命令は絶対であるというところであります。逆らうことは許されません。何が良かったかと云うと、下がまずじ―と上司を見るわけですね。やはり嫌なことを云われまして、こんちくしようと思つたわけですが、反抗することは許されませんでした。石の上にも三年といいますが、こうしたいろいろな経験が、実は自分が上司になつた時に生かされていくわけ

まいります。

二つ目の体験談は、レンジャー訓練についてであります。私はレンジャー教官をさせて頂きました。これはどの様な訓練かといいますが、全体で三ヶ月ぐらいの「人間強化訓練」であります。体力も、気力も、知力も磨くために、それぞれに色々な任務を与えます。一週間、山の中に入つて、「A地点からB地点に地雷を運びなさい」とか、「C地点の通信所を破壊しなさい」とかとか、「D地点に捕まつている捕虜を救出しなさい」とか、そういう任務が与えられます。それで二十人位がグループになつて、自

分の足だけを頼りに、その間、三分の食料をはいのうに入れて担ぎながら、人知れず目的を達成するまで、山中の訓練につきます。山中訓練にいぢみず。そして夜、星の関係なく、雨が降っても土の上で寝たりするような、全く自分の気力、体力の限界を越えるような訓練であります。私は二回位、意識不明で倒れたりしました。

訓練で何が良かったかなあと云いますと、矢張り自分の限界を経験した時に、始めて自分の力が判ります。大体人間は弱いもので、ある地点まで行くと、まあもう無理だなということ、自分で自制心があつて止めてしまふ傾向があるりますけど、実はそこから二〇パーセントぐらいの力が、まだ残っているわけでありませう。それを判定するのは誰かといふと、教官でありませう。まあ、まだできる、もつと歩くと云われると歩けるのです。そうした時期に於いては自分自身の体のなかには気が付かない潜在能力

二つ目は、「目先がきく」と云うことでありませう。目ききと云うのは余り良い言葉ではありませうが、要は先の事態がどうなるかと云うことを判断する能力を持ちなさいということ、一、二年先、五年先、七年先どうなるのかなど云う、先を見通す力を持つ人がより良い資質の人と云うことになります。

三つ目に云われたことは、「どんなに苦しう状態になつても、責任を回避することがあつてはならない」と、じーとして我慢熟慮して、その場から逃げてはなりません。よく云われることです。例えば船長は、船が沈みゆく時は、乗組員全員を逃がしてから船長が最後に脱すると云うことが、海の男の仁義というか、しきたりでありませう。そういう心構えが大事であつて、そうでないと人は動いてくれないといふことを云われました。

私も、そうしたことにとめて心掛けるように致しております。この前の選挙では自民党に

力というのがありまして、力を如何に限界まで毎日々々發揮することができるか、謂はば、九〇パーセントの力を發揮することができれば、七〇パーセント位の力を發揮して、のほほんと生きていく人よりは、大きな仕事が出るということ、そういう集中して發揮してゆく力と云うものをお話しました。

それからもう一つのポイントとして、上司から云われたことがあります。それは、「先ず人に好かれなさい」と云うことであります。同じことを云われても、好きな人から云われたことは、成る程と納得されますが、同じことであっても嫌いな人から云われると「何だ」と反感を受けてしまいます。やはり人格といふものが、信用ですね。そういうことで「人に好かれる人間」にならなければいけません。それにはどうすればいいかと云うことですが、そのためには皆さんが、それぞれの持ち味を生かしてゆくことだと思ひます。

対し、全国的に逆風が吹いて非常に厳しかったのですが、自民党の議員として当選できたという点も、そうした人と人との関係を大事にし、来たからだといふ強い思いでございます。以上、自分の体験に基いて、自己紹介とさせていただきます。政治家になつたのは三十二歳の時でございます。私は昭和三十二年生まれで、現在五十二歳であります。平成二年、一九九〇年に当選できました。当時は海部内閣でありまして、小沢幹事長としてその当時から小沢氏は非常に実力者でありました。その後、内閣は十三人、総理大臣が変わりました。

海部さんの次が宮沢さん、そのあとが羽田さん、細川さん、又、自民党にかえて大平さん。大平さんが三党連立を組んで、そのあとが橋本さん、小淵さん、森さんときて、そのあとに小泉さんが出てきました。小泉さんは約五年間やりました。そのあと安倍、福田、麻生、そして今の鳩山と云うことで、短期間に十三人も総理

大臣が娶ったと云うことであります。

やはり総理大臣がしつかりしないと、日本は

良くならないと云うことであります。会社もそ  
うですね。経営者の手腕によるところが大でし  
て、同じ体制にしても五年も六年も一貫してお  
りませんと、一つの成果というものは得られな  
いわけでありませぬ。ですからアメリカの大統領  
も任期中はずーと職に留まっておりますし、ロ

シアもイギリスも同じであります。やはりトッ

プがリーダーシップを發揮している間は、余り

足を引つ張つてはいけなさと云うことです。

日本の場合には直ぐにマスコミがいろんな成  
果を求めますが、やはりこれまでのようにトッ  
プがぐるぐる変わつていくようなこと自体が、  
良くないのではないかと思っております。そう  
ゆう状況のなかで政権交代が起こつてしま

ました。

そこで今夜はレジメにも書いてございます

が、今の鳩山政権を主題に、自民党議員として

於いては政府三役ということで副大臣、政府官  
が仕切るということでありませぬ。しかし自民党  
時代も、やはりこうしたポストについて仕事は  
やつてきておりました。

私が自衛隊で得た経験から申しますと、一人  
の人間が部下を掌握できる能力というのは、大  
体三十六人なのです。皆さんも学校で勉強して  
こられたように、一クラスは大体四十人から五  
十人なのです。一人の先生が、それぞれの生

徒さんを責任を以つて指導できる人数という  
ものには限界があります。大体三十六名であ

ります。何故かといふと、軍隊の一個少隊の  
人数は三十六人なのです。一個少隊の中には班  
というものがあつて、一つの班が九名であ  
ります。そして大体、四つの班に別れていま

す。それで人を管理しております。やはり気が配れ  
るのは三十六名であります。

ところが今の政治主導の政府三役というの  
は、一つのお役所の仕事を全部、大臣が仕切る

の今の私が、どう感じているかと云うことをお

話してゆきたいと思つております。

先づ鳩山政権はどうゆう政権かといひます  
と、やはり実体は連合、組合、左翼が背後にい  
るといふことで、非常に連合とか組合の影響力  
が大きくなりました。つまり関係の半分ぐら

いは、全国の連合とか労働組合の代表者や出身者  
が入つておりますので、それなりにそうした組

織の影響力が大きくなつております。

それから第三点は、小沢さんの存在が、今は  
絶対的になつております。見かけは鳩山首相が、  
ソフトクリームではありますせんが、ソフトな

イメージを演出しております。そうした中に、や  
はり強権的な体質が隠されております。

例えば、今までも「政策陳情判定会議」とい  
うのがありまして、政治主導で、官庁のいろ

んな団体や地方組織が、今の実状を説明して何  
とかしてくれませんかと云うお願いをしてい

ました。これを一切止めるようにして、官庁に

のたといふことなので、実際は機能停止になつ  
ています。役所には、事務官もいれば官房長も

いますし、局長もいたり、それぞれの仕事の一  
端をしながら、一つの省として組織として、動

いております。司、つかさど申しますが、いろ  
んなセクションを動かしてゆくのが、大臣や政

府官の努めでありませぬ。全ては、トップの判断  
を仰がないと物事ができないような仕組みに

なつております。

(つづく)

## わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

初夢「世界共同体」

(一九八六年一月四日記)

一九八六年の国際情勢の展望には明るいことが多い。米ソ関係が基本的に改善に向かっている。アフガニスタン問題で、国連の仲介による政治的解決が図られており、六月に予定されている米ソ首脳会談までに具体案を作ろうという気配だ。

年末の米ソ貿易協議会での合意に基づいて、石油・天然ガス開発、化学工業、農業などの分野で、経済交流、米国技術のソ連への導入が活発化しそうだ。

過去のいく度もの軍縮交渉も、結果は軍拡に終わっているのだ。

もう一つ、これまでは、現実に核兵器を使用する可能性があった。一九五〇年十一月二十日、トルーマン大統領は朝鮮戦線に原爆使用を考慮と言明した。一九五六年ごろ米国はベトナムで「南」支援のため「北」への原爆使用を検討していた(昨年末の米國務省公表による)。

しかし今までは、核戦争が起これば地球が破壊され人類が滅亡するという危機感が、体制を問わず、世界中にひろまっている。だから、ジネネーア声明も「核戦争に勝利はなく、決して戦ってはならない」と言明したのである。今後、核戦争の危険は回避され、途は長く遠くとも、今年が核兵器廃絶に向う第一年になるもの時期待したい。

歴史を振り返れば、ドイツとフランスとはフランス・フランス戦争、第一次大戦、第二次大戦と約七十年間に三度も戦った。それが今では

ジネネーア米ソ首脳会議で調印された米ソ科学・教育・文化交流協定の適用第一号として、レニングラードのエルミタージュ美術館とモスクワのプーシキン美術館所蔵の逸品―印象派、後期印象派の絵画の米国での展覧会開催が定まった。

全世界的な行事としては、国連主催で、軍事費を削って第三世界の発展に必要な援助を推進しようという国際会議が、パリで七月十五日から八月二日まで開催される。

こういう好ましい雰囲気のおかげで、肝心の米ソの核軍縮だけが進展しないのは気にかかる。米国の戦略防衛構想(SDI)固執とソ連の核実験禁止提案に対する米国の拒否など、四つに組んだままである。

なぜか。ジネネーアで両首脳は「軍事的優位は求めない」と誓ったが、両国間に不信感があるかぎり「つり合いのとれた軍備」についての一致した解釈はほとんどありえない。そのため、「欧州共同体」の成員として、鉄鋼、石炭、原子力を共同管理し、戦争は不可能の仲になっている。

ソ連と米国のみならず西側との間に、経済・文化その他各面の交流が進み、不信感が消えて、戦争の不可能な「世界共同体」がいつの日か出来上がる。これが私の初夢である。

# 虎・とら・トラ

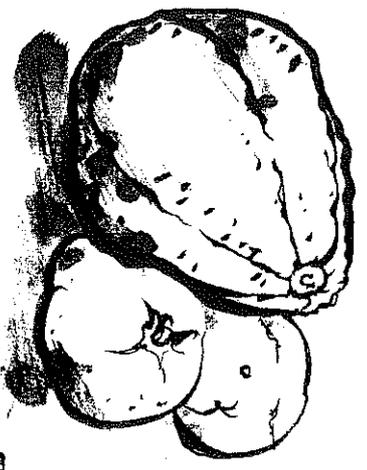
野澤 亨  
(当会理事)

一人人間はどの様に生かされ、どの様に生き  
ているのか、先の分からぬ人生といふものを過  
している不思議をつくづくと思つものだが、  
愈々七回目の年男といふことになる。この次の  
九十台の年男の時は、一寸無理かも知れぬ。  
さて虎年だが、寅かも知れぬが、この虎の方  
が分りよいし、虎の字の入った格言やことわざ  
を一寸考へてみると、虎は少々真面目である。  
我々の時代は例へば、虎は死して皮を残す、人  
は死して名を残すとか、虎穴に入らずんば虎子  
を得ず、或いは、虎はその子を谷底に落として  
這い上つてくる子を育てる等と云はれて育つ  
てきた。そして、虎視眈々とか、龍虎相搏つ、

平和で経済的な良好な世の中を作つて来た日  
本だつたではないか。  
単なるトラソニアとかではなくトランス  
ペアレントの方が良いかな。  
トラベルのトラジャットで、トラソクをトラ  
ンスちがいでトラグッた。  
もう少し落ちついて、トラぬ理の皮算用でも  
考へた方が良いのかも知れぬ。  
城島の入つた阪神、来年のタイガースと期待  
したいものである。

又虎は一日に千里を走るとか、正に勇ましい文  
言が多く見られる。然し又、張り子の虎や、虎  
の威を借る狐や、虎の巻、虎の皮のふんどし、  
虎の子、酒を飲みすぎた大虎等、少し情けない  
ものの、更に濁点をつければ、どら猫、どら息  
子となつてしまふ。

話は變るが近頃はコスト、コストで何でもか  
んでもけずりとり、心の問題や時間の問題もな  
くなり、何の余裕もなく、何時の間にかドライ  
になつて自分だけの生き方ばかりに過ぎてい  
る。その中で上手に生きようとして逃げ口を見  
つけている中に、前面の虎後門の狼となつて自  
暴自棄となり、他に当たり散らしたり自殺した  
りする情けない若者が多い。  
昔は仁義礼知信と、相手といふか他人様を尊  
重しつやつてきた。もつと相互を助け合ふよ  
うゆとりある世の中であり度いと思ふのであ  
る。世の中はテフシの中に進むが、江戸時代は、  
物も人も大切にしながら良い循環の社会で、



作品 関根常雄

## 物事、難しいことはない

井浦 康之  
(当会理事)

自分に疑問を感じたら、他人とではな  
く過去の自分と比較してみる

テレビのトーク番組にある女優がでている  
としよう。女優の仕事を持ちながら、家では妻  
であり母であり、家庭を大事にしている。趣味  
が高じてフランクと書道は師範級の腕前だ。  
最近ではガーデニングと油絵も始めた。彼女は女  
優だけに美しいし、自分の考えをしっかり持っ  
ていて、自分の言葉で語ることができる。  
そのトークをお茶の間で見ているごく普通  
の主婦が、「私もこうなりたいけど、なれない

となるかもしれない。

五年間にはいろいろな経験をしたし、いろ  
いろなことも憶えたはずだ。比べてみても明らか  
に五年分の差がある。すると「たったら前は  
失敗したけれど、今はうまくいくかもしれない  
な」と思えてくるだろう。

少なくとも人間は、「二年経てば何もして  
いないようでも、経験して、進歩しているもの  
なのだ。そこで自信を得て、「今の俺なら何と  
かなる」と思うことができれば、希望が湧いて  
くる。道が開けてくるのである。

もし、類似例が自分の過去になかったとして  
も、ほかの過去をいくつも並べて、比較してみ  
れば「あの時よりもずいぶんいいな」この時よ  
りはまだましかも」などと思えて、安心感がで  
てくるだろう。

もちろん成功するには安心感だけでなく、何  
よりも努力が大切だ。努力もなしに、経験だけ  
で成功を目指すのでは、なんとも心許ないこと

わねえ」と思うのは、ごく自然な発想である。  
自分は夫の稼ぎで食っていて、こんなに自由に  
生きられないと思うのも、まあ仕方がないだろ  
う。  
だが、いくら「こうなりたい」と思う対象が、  
女優じゃなくてもっと身近な人だっただとして  
も、やはり「こうなりたい」相手のようになる

ことはできないだろう。

なぜなら、その人はその人で、自分は自分な  
のだ。いくら他人と比較しても、相手は自分で  
なくちがう人なのだから、同じようになれるも  
のではない。だから他人と比較して「こうなり  
たいけれどなれない」と悩むのは無駄なことだ  
ある。

それでは何と比較してみればいいのかという  
と、過去の自分である。たとえば、今難しい状  
況にあつたら、過去に似たようなことがあつた  
かを考えてみる。すると「前にこれを失敗した  
ときは俺は二十歳だったな。今、俺は二十五だ」  
である。

水戸黄門で有名な、水戸藩の徳川光圀は「ふ  
と見れば何の苦もなき水鳥の足に暇なきわが  
思いかな」という歌を詠んだという。実際にお  
堀に行ってみると、鴨や白鳥が水面を滑るよう  
にサーッと泳いでいるのが見られる。  
首を起こして姿勢も正しく滑っていく姿は、  
光圀が言うように、遠目にはそれこそ軽やかで  
何の苦もないように見える。しかしひとたび水  
の中を覗いてみると、水掻きの足が慌ただしく  
漕がれているのがわかる。

傍目に涼しそうに見えるためには、そのぶん  
人から見えないところでせつせと努力しなく  
てはならない。言い換えれば、自分できちんと  
努力をしなければ、うまくいくわけがないとい  
うことだ。

小さな努力と小さな成功を積み重ねると、大  
きな成功に近づくことができる。理想的なのは  
段階をおって前へ進んでいくことだ。初めから

自分の能力に不相应な難しいことをしようとすれば、早々に挫けてしまう。

最初はごく簡単な仕事をし、それができたらつぎはもう少し難しくといった具合に、徐々に難しくしながら小さな成功を積み上げていく。三回目ぐらには自信がついている。もちろん失敗はつきものだから、それにはごだわらずに、いい経験をさせてもらったなと思えば失敗も失敗でなくなる。

それでもクヨクヨしてしまふことがあるかもしれない。クヨクヨするというのは、過去の自分の経験と照らしているときに、できないと思つてしまつたということだ。しかし、まだできないうんじやないかと考えては、そこでもう動けなくなつてしまふ。

だからそうではなく、どうしたらできるのかを考え、「今の自分だったら何とかできるはずだろう」と過去の自分と現在の自分を比較しながら、前向きに発想を奏えていくと、大きな成

そこで私は「いるじやない、味方。二人目の味方は僕だよ。あなたさつき味方が一人もいないつて言つてたよね。一人もいるじやないか。素晴らしいじやない」と言つてあげた。すると、「いるんですね」と彼女の表情がはつきりと爽

わつた。同じようなタイプで、暴力をふるう不登校の子どもを持つた、お母さんの話がある。彼女は相談に来るなり、自分ほど不幸な人はいないと涙ながらに訴えた。そしてそのうちに「うちの子は一年のうち、たった一週間しか学校へいかなかった」と言いはじめた。

それを聞いて「一週間も行けたんじや、たいしたことですよ」と言つたら、彼女はぼかんとなった。「お子さんは体を壊して寝ていたりするんですか」と訊くと「体ばかり丈夫なのに、学校にも行かずに悪さばかりですよ」と、また肯定的にとらうとする。そこで「丈夫なことが一番じやないですか」と言つた。

功にたどり着けるはずだ。

難しい状況も、考え方ひとつで望ましい状況になる

一人でものごとを突きつめて考えていると、同じところをぐるぐる回つたまま、どんどん悪くも自分が今正しい道を歩いているのかどうかもわからなくなつてしまふ。そんなときは人に悩みを話してみると、道が開けてくるはずだ。私のところへ、ある女性が相談に来た。「みんなが私のことを嫌っているんです」と彼女は言う。「だれも私のことを理解してくれませんか。私の味方なんて一人もいません」と断定的な口調である。

私はまず「あなたのお母さんはどうなんですか。味方じやないの？」と質問をした。すると「母は味方です」という答えが返つてきた。

そう言われて彼女ははつと氣づいたようだった。意固地にこたわつていたものから解放されて楽になつたのだらう。帰るころにはつきものが落ちたようになつていた。

不登校の子どもを抱える親ばかりがそうだとも言えないが、私には、なぜ親がもつと子どもを認めて、褒めてあげないのかというところが不思議である。何も大げさなことを言わなくていい。「お前、元氣でいいね」などという他愛のないものでも構わないのだ。

それがすぐに「何で学校に行かないんだ」今からそんな状態でこれからどうするつもりだ「何やつてるんだ」と上からたたみかけるように押しつけていくものだから、ますます状況が悪くなつていく。

子どもが家に引きこもる原因のひとつには、親が本当に子どもの幸せを考えていないということがある。不登校になつているのを「みつともない」とか「周りがどうみているか」とか、

世間体を気にした見方でしかみられないのは  
とんでもない話である。

もつときちんと子どもに寄り添い、理解しようとし、関心をよせてあげべきなのに、不登校の子どもを持つた自分を憐れんでいるようでは、それこそいつまでたつても何の解決にもならない。こんな親が本当に子どもを愛しているのかは疑問である。

ある家の子どもは不登校になってしばらくしてから、家庭内暴力をふるうようになった。悪態をつきながら、本やそれほど大きくないものを、親の体に当たらないぎりぎりのところへ投げつける。

今はまだ、かりにぶつけられても大した怪我にはならないだろうが、至近距離から投げつけられるとさすがに怖いなと思う。ましてやこれがどんどんエスカレートして、刃物でも持つて暴れるようになっては、取り返しのつかないことになるかもしれない。

つくり返してあげると、意外なほど簡単に、望ましい状況へと変えることができるということだ。

### 肩書、面子にこだわると、やさしい問題も難しくなる

会社で、中高年の役員さんや部長さん、課長さんにパソコンを教えている若い女性が、こんなことを話していた。彼らにとつて、今まで確かにパソコンやインターネットは馴染みのなものだった。しかし、同じように不得手のパソコンを始めようとする役員さん、部長さんたちでも、彼らが役員、部長の肩書にとらわれていかどうかであるというのである。

役員の俺が、部長の俺が、今さら何でこんな面倒くさいことをやらなければならんのだよやき、今まで部下を叱咤激励してきた役員、部長の権威を保ちながらパソコンを習おうと

そこで母親はカクンセラ一のもとへ相談に行つた。するとカクンセラ一に「子どもが暴力という手段にでるのは、私を解つてほしいという気持ちのあらわれなのだ」と教えられて愕然としたという。

それまでは、急に凶暴化した子どもに恐怖を抱くばかりで、その暴力や悪態の裏側にある気持ちまでは、考えてみたことがなかった。どこが、体が大きくとも、中身はまだ幼いことかわかつて、とたんに子どもが愛らしく感じた。そこでつぎに暴力をふるわれたときに、今度は母親がしつかりと子どもを抱きしめて、「お前は私の子どもだ」と言つた。それで家庭内暴力はおさまってしまったという。子どもは自分を理解してくる人、見捨てないでいてくれる人を欲していたのだ。

つまり固定観念や世間の常識にしばられていると、難しい状況はいつまでも難しいままである。そこで考え方を、否定的から肯定的にひ

する人は、間違はなく上達が遅い。これに対して、あつさり役員、部長の肩書きをかなぐり捨て、一人の無知な初心者になれる役員、部長さんたちは、例外なく上達が早い。「いつも部下を指導する立場にいた自分が、娘のような年代のインストラクターに怒られたり、励まされたりしながらパソコンを習い、久しぶりに恥をかいたり、馬鹿にされたりして、謙虚になることの快感を味わいましたよ」と、喜んで帰つていった役員さんもいたという。

なにごとによらず、中高年からの習いごとは、こうしたメリットがあることに注目したい。つまり、習いごとにとどまらな、ある種の問題解決の教訓が含まれていると思つのである。パソコンだけでなく、楽器を習う、俳句を習うといったとき、初めはだれでも初心者である。初めて接するものが難しいのは当然である。しかし、この難しさを助長してしまうのが、特に中高年の場合、自分の肩書きや地位と言つ

た。過去の栄光“なのである。初めてのもの、  
 難しいものに直面したとき、小学生のように無  
 知な自分を素直に受け入れ、無心になれるかど  
 うか。面子を捨てて、謙虚になれる人は、その  
 難しい課題に裸でぶつかっている。その分、  
 上達が早い、つまり問題解決の道が早く開ける  
 のだ。  
 中高年サラリーマンのリストラが社会問題  
 となっているが、リストラされた人が再就職す  
 る際に、前の肩書きが偉かった人ほど、なかな  
 か就職できない傾向がある。有名企業をリスト  
 ラされた人が、面接で「あなたは何ができます  
 か」と尋ねられ、「部長ができます」と胸を張  
 って答えた、そんな笑い話もある。  
 日本人の平均寿命は年々伸びていて、男性が  
 七十七歳となっている。定年退職したあとも、  
 まだ長い老後を過ごさなければならぬ。これ  
 もまた、大企業で偉かった人ほど、その肩書き  
 を失うと何も残らず、定年後の生き甲斐を見出

## 人生闊歩

「アメリカはスピーチの国だから」

## ランゴ岩本

我が大学を代表しないか？

何の為にクラーク教授が私に「会いに来な  
 い」とノートを残したのが解らなかつた。唯  
 一思い付くことと言えは、叱られるのだらうと  
 いう事だけだつた。私がスピーチで言ったこと  
 の何かに文句を言われるのではない  
 か・・・？如何に善意からとはいえ、如何に  
 建設的意図からとはいえ、私がアメリカを批判  
 したのは確かだつた。しかも、アメリカ式に、

せまい傾向がある。  
 先ほど、済んでしまった失敗をよくよする  
 など書いた。過去の失敗に限らず、実績や名声  
 といった過去の栄光も同じである。いつまでも  
 ひきずっていてはいけない。過去の榮譽を思い  
 出して自信をつけ、励みにするのはいいことだ  
 が、もつと大切なのは、今の自分がどうあるべ  
 きか、明日の自分がどうなっているか、という  
 ことである。  
 八十年近い人生の階段は長い。しかし、若く  
 して不慮の死をとげることもある。この原稿を  
 書いている私も、今この本を読んでいるあなた  
 も、もしかしたら明日死んでしまうかもしれな  
 い。だから、いつその階段が途切れてもいよ  
 うに、過去に縛られずに未来を見ずえること  
 である。  
 (つづく)

「率直に、正直に」やつたのだ・・・。ノック  
 して、覚悟して、教授のオフィスに入ると、机  
 の向こう側から私を凝視する教授の目があつ  
 た。何か商品の品定めをしている感じの目つき  
 である。

「君のデリバリ（話し方）が気に入つた」  
 ど、いきなり単調直入である。「君はイントロ  
 ダクション（紹介部分）に時間を掛け過ぎる癖  
 はあるけどね。しかしそれは、一緒にホリシユ  
 アツア（磨き上げる）ことが出来る一簡単だ」  
 「・・・何のことやら解らぬ私は、ただだ  
 だ彼を見つめるだけだつた。「君のスピーチは  
 大変誠実だつた」と些か愉快氣に言った後で、  
 彼は、遠くを見つめる目付きとなり、「そう、  
 君は全く誠実だつた」と言った。私は顔が赤く  
 なつた。叱られると思つていたので、からかわ  
 れているのか、褒められているのか、見当がつか  
 なくなつた。「サ、私は、言いたい事を一言

うべきと信じた事を一言いまして「解つて  
いる」と愉快げに返事した彼は、急に早口と  
なった。「君のデリバリはダイナミックだつ  
た。気に入つたよ。僕が君をポリシユアツグ出  
来ると思う。近く大学対抗試合のスピーチ・ト  
ーナメントがある。演説部門だ。やる気あるか  
ね？」

「何ですって？」と言うのがやつとだった。  
混乱極まつて、「今、何と言われました？ 何  
に、私が、やる気があるかも、とは？」「ス  
ピーチ・トーナメント。米北西部の各大学のス  
ピーチ部門の試合だ。僕のコーチングと君のデ  
リバリで、我々のホイトワリス大は、演説  
部門でトロフィーを獲得(優勝)可能と思っ  
た。やるかい？」

仰天した。他のアメリカの学生たち — 他  
校の選手たち、多分スピーチを専攻する学生代  
表者たちとの試合……しかも英語で？ フ  
リ得ない……馬鹿げている……想像できない、あ  
い……

「怖がつているんじゃないだろうね」と、私  
の臆想をききえぎった教授。「アイ・カイル・ハ  
ルグ・ユル」(僕が手伝つてあげるよ)。「で、  
でも、クラーク教授、私は何を言えれば良いので  
すか？」「今日、君が言ったこと」と、彼は  
当然至極に返事した。「一緒にあのスピーチを  
磨き上げればいい」「フウ！ あれはダメ  
です！」が私の即答だった。興味をそがれた級  
友たちの顔が頭に浮かんでいた。「反応はあま  
りに否定的でした。違つた風に言わねばダメで  
す」「オーケー、それなら違つた風に言えは  
いい。同じテーマであのスピーチを書き直して、  
この金曜日に持つて来なさい」

後日、「無知は祝福なり」が私の口癖になつ  
た。何か重大な事に当たる時、あまり細々した  
ことは知らない方がやり易い、という意味。目  
的に焦点を絞つたら、後はただひとつに、真  
一文字に突き進め、といったこと。このスピ  
ーチ・トーナメントが、「二週間後」で、対抗試  
合の場所が私がいだウシントンではなくオレ  
ゴン州で、「約五〇校もの大学代表」が参加  
しかも「留学生参加は多分私だけ」と、若し私  
が知らされていたら、私はおじけついで、参加  
を棄権してはいたに違いない。

スピーチを書き直す為、私は二日間というも  
の、他の授業の山積する宿題を横に押しやりさ  
ほつて、スピーチに専念した。

「もつとダイナミックにしようじゃないか」  
と、私のドラフトにぎと目を通したクラ  
ーク教授が言った。「ワード・キツアリン  
グのこと知ってる？」「少しだけなら……」  
あの有名な『East is East and West is West』  
(東は東、西は西)の詩人ですね」と私。「そ  
の通り」と教授はにつこりして、「それが此処  
に必要」と、私の紹介部分の前半をカットした。  
「君の自己紹介、より良い理解をもたらしい  
という君の願いは良く書けている」が、ナツ  
ト・ウエル・イナフ(十分に良くではない)。  
君も知るようにグッド・イナフ(十二分に良  
くでなければならぬ)。もつとチャイニング  
にしようじゃないか。審査員たちの同情心にフ  
ールせねばならない。君はこの国に来てまだ

十八ヶ月の留学生と言つてね」と彼は私の紹介部分の残りの半分もカットした。

「さてスピーチのボディ（本体）……こんな風に本体に滑り込んではいかん。聞き手の頭に、君がこれから話す内容がしつかり入る様に、本体に入る前に、ポイントを要約すること」と言つて、彼はスピーチの要約の三行を本体の前に挿入した。三ポイントである。

「さあ、これから本体だが、最初の要約のポイントをここで繰り返すのだ。目的は、審査員にはつきりこれから君が話すことの内容を把握させる為だ」と、彼は最初のポイントを本体の前に挿入した。そして、第二、第三のポイントも、それぞれの本体の部分に挿入。そして結論の本体の前に、「この三つのポイントを繰り返す。審査員たちが、君が話したことをつきり意識する様にね」と三行挿入。さて結論だ。

「あの偉大な英国のライオン、ラドヤード・キップリングが、前世紀に書きました、『東は東、西は西、and never the twain shall meet』（この両者が出会うことはないだろう）」と、「どこで私の右腕は勝手に前方へ動いてしまふ。しかし今、悲惨な第二次世界大戦が終わつて100年後の今、戦争中に相互破壊に専念した日本とアメリカは最早鬪争で対立せず、東の日本人と西のアメリカ人はこれ迄にない友好的関係を築きつてあります」

教授のドラマチックな紹介部分を練習しながら、私は凄く居心地が悪かつた。その心境を反映して、右腕が勝手に、前に飛び出したり、ぐるぐる円をかいだりしてしまふ。ああ、この右手、なんとかならないか……？ たどりついた結論は無視せよ、だつた。動きたいなら、勝手に動け！ 私が優先すべきなのは、先ずスピーチの咀嚼、そしてよどみなく語れること、の

結論は、テーマの紹介部分と調和していることが大事だ。だから同様にドラマチックにしようじゃないか……ミスター・キップリングに再登場して貰おう」と、私が三時間かけた結論をカットした。

このドラフトの大手術にかかった時間は三分足らずだつた。この文の最初に書いた様に、クランク教授は典型的アメリカ人の中でも、飛びぬけたアメリカ人だつた。システマティックで、ビジネスライクで、そしていやはやそのテンポの速さといつたら……。「さあ出来た！」と彼は大きく微笑した。「さあ、やるのだ！ この週末練習して、月曜の午後に来なさい！」というわけで、その週末私はまた、他のクラスの宿題を放つぽり出して、スピーチの原稿を左手に、姿無き聴衆に右手を差し伸べて部屋の中をぐるぐる移動しての練習となつた。

完成だ！

世に知られる名演説家も、初期には同様に、人知れぬ、苦勞の努力をしたに違いない。あの聞き惚れる雄弁で「シルバリー・タンゴ」と呼ばれたウイリアム・ジエニング・グライアソング、リンカーンだつて、初期の練習過程では、どれほど孤独感を味わつたことだらう。そういうえは、各演説で知られる現存のグラハム・グリーンソンが回顧録で書いていた。若い時、スピーチがうまくなりたくて、独り森のなかの湖の辺に立つて練習したと。聞き役は、蛙や周りの木立ち、そしてそよ風だつた……。

昭経俳壇

選者 遠藤 蘆穂

十字架に立冬の陽のやわらかき

三 郎

勢ぞろひまゆ玉静かに揺れてをり

○笹鳴きのたどたどしや孫二人

船員の定年となり晝替 悟 風

ダニ・ケイ映画のホワイトクリスマス

○地下街を抜け酔醒めの冬銀河

ひいらぎの知らずに咲きて匂ひけり

湯治宿下駄の齒につく今朝の雪

テレビより吾子の陽気な初笑ひ

もしかして道尋ねしは雪女郎

すぐそこに国後島や冬の海

二の酉や吉原あたり赤らめる

◎電光のトナカイ走る十二月

元旦や論語素読の孔子廟

合唱にナース加はりクリスマス

枯菊の色さめたるは無残なり

○交番に破魔矢持ちたる迷子かな

青空に赤き実点々柿落葉

初刷に政官財の波乱かな

茜空でんでんばらばら寒鴉

初雪や落葉松手早く薄化粧

剣太郎 ○参道の聖夜波うつ豆電球

○田の神も遷座す雪の干拓地

商店街外れて餅つく杵の音

フエルト  
フエルト

尼寺に人影もなし神無月

富貴男

年の瀬の雲せかせかと過ぎゆけり

坐禅組む島の影絵の冬障子

○寅年の夢はふくらみ日記買ふ

○蓬葉を飾る旧家の門構え

幼児まで箸の器用な節の膳

蓬葉に威儀を正してあがりけり

去年の愚痴言わずもがなの年酒かな

玄関に得意然たり飾り白

冬立つや百姓名利の骨休め どんぐり

柚子の香のしゃぼん流して長湯かな

縁子 麦を蒔く男体山のふもとにて

○佐助の笑みのこぼるゝ日和かな

田舎よりみやげに如何がと山牛蒡

○冬耕のあとにさびしや牛一頭

○申本へ連絡船や初霞

幼稚園に父のサンタが集まりし

暴落にふてくされ寝る玉子酒 山人

長崎の港に雨の夜鷹蕎麦

長谷川

狩終えて兎一匹阿蘇の宿

熟睡は菊正宗に蕎麦湯かな

職捜す青年の列降誕祭

○番台の親爺は鼻歌着ぶくれて

友人の便りうれしき古稀の春

潮騒を遠くに鯨鯨の吊るし切り

めでたさや古稀と年賀の重ね膳

社会鋼三越前の人往き来

初聴夢の続きと又寝入る

○頭領が先づ箸を入れ祝ひ膳

\* 後記随想 佐々木誠吾

娘の明子が三年半に亘る赴任先のニューヨークの勤務を終えて、一月二日に帰国することになった。ニューヨークではテレビ東京(十二チャンネル)のアナウンサーとして、毎朝五時四十五分(日本時間)から始まるモーニング・サテライト・ニュースの番組に出て、めまぐるしく動いた経済、政治問題を中心にホットなニュースを報道してきた。朝早くからの一時間の充実した番組で、出勤前の日本のビジネスマンにとつては必見の番組である。

明子は、この三年間半のサテライト・ロソ問題に端を発したニューヨーク発金融大危機が、百年に一度といわれた規模とスケールで全世界を震撼させてきたなかで、日々の勤務に耐えて専らその報道に専念してきた。特にリソ・ショックで揺れた金融構造の、崩壊と立て直しは素早く、立て続けに打ち出された国際的連携による各国の対策が大規模であつたが

ゆえに功を奏し、世界は奈落の底から立ち上ることができたが、明子は日々、正確、迅速な報道に徹し、我々に多くの教訓的資料を提供しつづけ、関係者に的確な判断を与えてきた功績は、自他ともにみとめるところであり、私としても誇りに思っている。アメリカ式流儀を以て云うならば、素直に、I AM PROUD OF MR DAUGHTER ということである。

昨夜(十二月十四日)十一時半から始まったワイルド・ビジネス・サテライトの番組に三エーヨークの佐々木さんと、いつもの呼びかけに颯爽と登場したが、これが最後の出演といふことが判つて、何やら寂しい気がしたのである。ニューヨークでは十二月二十八日まで勤務し一月二日、日本に帰国する。四日から東京で仕事が始まる。

毎週月曜日から金曜日の毎朝のモーニング・サテライト・ニュースに出る明子の元気でさわやかな笑顔をみて「お早う」といって安心

し、番組を楽しみに今まで過して来たが、これも今年いっぱいで見ることができなくなると思うと、帰国すると云うのに何だか寂しい気持ちになる。

三年半の間、百年に一度の経済危機と大混乱のさなか、繁栄と没落をくりかえす世界経済の中心であり、その象徴の地・ニューヨークの驛然たる街で、とにかく病氣一つせず、健康で職務を遂行できることは幸せであつた。幸せと云うのは、彼女自身にとつても大いに勉強になつたということである。経済だけでなく、政治の世界でも大変動を遂げたことであつた。これらの出来事は、彼女に与えられた大きなチャンスであつたし、この体験こそは、これからの人生に於いて、大きな使命と希望に向つてゆくことに對し、与えられた神の豊かな恩寵である。

私もその間、明子のおかげで妻と一緒に三回ニューヨークに向けて出発することができた。洋上に立つ自由の女神を背景に、明子と一緒にきてもらいたい。ハルヤ。十二月十四日

私ほどの年齢になると孫が何人もいて、例えば当会理事の高木新二郎君などは、当の昔に六人もの孫に恵まれている。最も結婚が早く、子供をもうけ、子供の結婚も親の血筋で早くなる。当然孫も持つ年頃も若くなる。今はどうしているか知らないが、同期の飯田章君などは二十歳の時に結婚して子供がいた。三十代後半で孫の話をされて、度肝を抜かれた記憶がある。小生に二番目の孫が九月十三日に授かった。長男家族は今、目黒の花房山に世帯を構えている。授かった娘は、二人とも女の子である。上の子は四歳で、白金幼稚園の年中組で来年年長組になる。機敏で賢い子である。名前を「佳」と言う。最初は違和感があったが、若い者たちがつけた名前だから、とやかく云う筋合いでもないと思つた。しかし、今思うとなかなか呼びやすく、良い名前だと思つている。普段は「佳ちゃん」と呼んでいる。

\*

一番目に生れた子は、どんな名前をつけたらいいか、一応相談を受けたりしたが、散々に迷つた。一番目の子だから、一番の子の時ほど夢中ではないし、これが又、男の子だったりする中、そうでもないのかも知れないが、続けて女の子だつたので関心も一番目の時ほどでもない。おまけにそっくりな顔つきなので、感興も湧かないのである。いつまで経つても名前がつけられず、極端な云い方をすると、無関心で放り出されたといった感じであつた。そうした状態を見て私のワインが「これだから二番目の子は可哀想だ。名前がまだつけられないでいる。何とかしなければ」といつた按配である。見ていても上の佳ちゃんど生まれた時とそっくりだし、全く同じ感じだから、その存在感すらない。ましてや上の佳は下に妹が出来たと云うことで、はたから見ても戸惑いを隠せない様子である。子供ながら、時に異様な心理状態にもなつて、今まで自分中心の生活が

多少変つたことに、複雑な心境のようである。情緒不安定なので、生まれてきた赤ん坊のことは口に出さないようにして、相愛わらず周りは「佳ちゃん」中心で動いているというこでなにと、子供ながら納得いかないらしい。まぢやんは、妹の存在について複雑な心境と対応を見せる。だから、佳ちゃん存在は大きいんだと云う状態でない、本人が困惑してくるので、家族はみんなが極力そのように努めているのである。二週間たつて無名の妹が、現実困つた状態になつた。慌てた息子が従所に届け出すのに名前がないのでは手続きできない。どうしたらよいかと子供をかえこんで、拙宅に皆んなでやつてきた。息子夫婦は自分の子に対して、我々までが自分たちの孫に対して、何とか命名しなければならぬという責任に始めて気づいたのである。慌ててみたからとつていい名前が出てくるものでもないし、時間をかけたからと

いつていいものでもない。しかし時間は切迫している。あれだ、これだと列挙した名前は十五ぐらいあつただらうか。目映りするし、戸惑う始末でこんなストレスを感じることも稀である。元来が目出たいはずのことながら、煩わしくなつてきた。上の子の名が「佳」と一字の漢字なので、下も呼びやすく一字がいと云うことに決まつて、一字で決まる字を片っ端から書き上げてみた。文字通り試行錯誤の末にやつと、「麗」という字にしようと思つた。この時、みんな胸をなでおろして、緊迫感、焦燥感から解放されて、ほつと一息つく思ひだつた。

孫の二人の様子をみて手いるとハラハラしてしまふ。佳ちゃんが、麗ちゃんを可愛がり世話をする様子である。執拗に可愛がりたりしたかと思つと、扱い方が難になつて荒つぽい気がするが、実際にはそうではないらしい。本能的な動作なのだらう。やられては麗ちゃんが気が

の毒な、時に我慢しているのではないかと、佳ちゃんの好きなように扱われている。しかし麗ちゃん、自分の意志で身動き出来ないままに上の子にされるがままである。傍から見ていると乱暴な扱いをされているようだが、赤ん坊と申し、子供どうしからすると、これでいいのかもしれない。下の子はこうして強い子に育っていくに違いない。案ずることなく、放っておいたほうがいいのかもしれない。

私が代表を務める短歌同人誌「淵」の合評会が、常設会場となっている銀座資生堂パーラーで十一月一日行われた。私は孫と題して今回、七十首の祝いうたを詠んで発表した。佳の時も、約百首ほど詠んで発表した。

同人の渋谷富子さんが、孫とだいて私の詠んだ和歌の中でも、次の二首が素晴らしいと評してくれた。いづれも孫の名前について、自分の感興と期待を込めて祝うたとしたものである。名前負けしないように、元気にすくすく

#### \* 忍耐と脱却の自民党

政権交代前の自民党の姿は全く私たちの目前から消えていました。否、現在の自民党の姿さえ世の旋風に埋没されて、昔日の思いは全くありません。当然とは云いながら、自民党はありませぬ。呼びでないといった始末です。何を云つても、叫んでみても無視されて、犬の遠吠えにしが聞こえません。存在感すら無くなってしまいました。消滅とも思える、その断末魔は、積年のツネリズム、随性、怠慢、その象徴的なことは税金の合法的横領で、政界、官界に深く浸透していったのでした。

霞ヶ関埋蔵金とまで云われるものです。初めはその実体すら、国民にはわかりませんでした。それが税金のかすめ取りであったことに愕然としました。長きに渡り、貴重な国民の税金に群がって、如何にしてこれを自分の利益に誘導していくか、これこそが正直のところ政治と行政の根深い確執が隠然としてあったのです。

佳といふ名の字の下に人と書き孫のめぐみをつねに折れり

麗とく名の字の下に人と書き孫のぞみの先を願へり

佳の字の下に人と書き置くと「佳人」、麗の字の下に人と書き入れると「麗人」ということになる。渋谷さんは、私の意中を見事に射抜いて取り上げて評して下さいだったのである。そこで、孫たちにはよい名前がつけられた。和歌も渋谷さんが云う通りで立派だと、自画自賛しているところである。

優秀な政治家、官吏として登用されながら、いつの間にか、長い歴史に堆積された汚泥に浸かってしまい、高い志はいつの間にか失われ、悪しき慣習に染まってしまうのでしょ。もはや貴重な才能を充分に発揮しえずに、平然として倫理感、道徳感の欠如を煽る結果となりました。汚職、公金横領が蔓延し、秩序は乱れ、拝金主義は世を覆う状況となりました。自民党政権のおがきは、大臣のほんそう齋の記者会見、酒酔い居眠り記者会見といった醜態を恥じなく演じ、時の首相は弁解して止まぬだらしない政権におちぶれていました。自浄能力を失った政権に、国民は嫌悪感を抱いていらっ

ていました。

そうした自民党内にも、内情を知った経験豊かな人材がいます。世直しの為に登用するどころに、野党としての力量を発揮し、国民の信頼を勝ち取ってゆく努力が必要です。古き体験を引きずってきた自民党の時代は終焉し

ました。これからは新しく甦った政党として、いつしか国民の前に出て来て来て欲しいと思つています。活力と新鮮さを感じる今の民主党を前にして、自民党の出る余地はありません。暫くは忍耐と勉強と、その結果、何時しかよみがえるときを待つしかありません。

今、国民の目は、政権掌握後、二ヶ月余しかならない民主党政治の成り行きに固唾を呑んで見守つているところですから。離間山積に果敢に立ち向かつて、自民党時代とは全く違つた手法と考えて、運営の舵を取りつあります。そうしたなか、自民党の中谷 元 防衛庁長官をお招きして、野党から見た民主党の姿、これからの進んでいく方向と実体について、それなりにお話しして頂くことは、重要なことだと思います。そうした意味で、敢えて自民党の中でも清潔感に溢れ、良識派であり、有能な政治家として将来を期待される中谷氏に、今の政治状況をどう見ているかをうかがうことは、大変重要なこと

#### 母校の建学精神

小職が主宰している短歌同人誌、淵、のあとがきを毎号書いているが、今回思い出の記としてペンを走らせたあとが面白かつたので、多少形を姿で載せてみることにした。随分と昔の話であるが、不思議と覚えていたので何となく書いてみた。思つたことを気にしないで書いているので、当たり障りがあるのは当然で、そんなことを気にしていたら書けるものではない。読み返して添削したり推敲することもないし、そのときのそのままである。

学び舎の創立には、必ず建学の精神みたいなものが仰々しく掲げてあるものである。当人はいざ知らず、これを継承していく学園の教育者は大乗かもしれないが、あとの人たちは少しでも建学の精神を実現していきこうという責任を負わされていくことになるし、その努力をしていか

なければならぬから大変である。

私の母校の大学で昔、大学主催による課外講義が大隈講堂で度々催された。内外の著名な政治家や学者が、交流のために壇上に立った。充実して、記憶に残る人物が沢山招かれて登壇した。大隈講堂の下にも三百名ほど入る小講堂があつて、ここで行われた課外講義に、商学部教授の北沢新次郎氏が演壇に立つて、学生に対して講演したことがあつた。私は政経学部の在学中に生だったが、弁舌に定評のある北沢氏だったので参加した。小講堂は満員だった。既に忘却の彼方であるが、教授の言つた話の中で未だに記憶に残つている部分がある。

曰く、母校では政治を志す学生が多い。創立者の大隈重信侯は「天下を三分して、その一をどれ」と喝破したが、高田早苗は「天下を二分して、その一をどれ」と云つて学生に楯を飛ばしたと云う。信偽の程は判らないが、言つたに

として認識し、お招きしました。政権交代後未だ二ヶ月余ですが、政治と世の中が、変化を求めて急速に、大きく展開しつあります。

新政府の樹立の明治維新の天下分け目の動乱期、封建社会と鎖国を解いて、開国と、文明開化に沸いて多くのいがぐり頭の学生が、知識と勉強のため地方から都を目指して「学、もし成らずんば死すとも帰らず」と陸統としてのぼってきたものである。

富国強兵、殖産興業を以て、国を挙げて欧米諸国に追いつこうと、国内の改革を始め、資源を求めて海外に進出したのは良かったが、それが誤算の始まりだった。海外進出の意味を間違えて、暴走しながら行き着くところまで行って、帝国主義のお先棒を掲げ、矢鱈と戦線を広げていった。しまいに真珠湾の奇襲攻撃を仕掛け、巨大なアメリカまで戦線に巻き込んで行ったのである。無謀というほかはない。日本の敗北はもはや時間の問題だった。

結果、アメリカの圧倒的な戦力の前で憤死して全面降伏した日本。戦火の損害は、国の存亡を賭けた甚大であった。開国、文明開化に沸

いるか知れないが、例えば身体のかい、けつ、張ったアメリカ兵を好奇と羨望で見、異様な欧米人種とその体形を目の当たりにしたものである。身体ばかりではない、地図を見ても国の広さは一目瞭然、それらを相手に戦争を仕掛けたのだから、無鉄砲さも、あきれんばかりであった。見ていた地図にしても、日本の国は赤く染まって、今よりも二倍くらい大きく書かれてあった。国民は日本は神国だから当然である

と誰もがこれを信じていた。

そうした戦後の様相は、攘夷、開国に混乱した幕末の様相とあまり変わるところがなかった程に、国民は無知蒙昧に等しかった。戦後の混乱期、日本は第二の文明開化に沸き立っていた。たようなものである。否、むしろもつとひどかつたかもしれない。尊王攘夷に等しい社会と、軍国主義、秘密警察から解放されて、戸惑うほどに浮き足立っていたのである。だから自由解放に沸き立った日本は、青年学徒たちの、その

き立った日本国民は、いつの間にか独善的にな

りうぬぼれた拳句に神国におさまり、軍国主義に慕進して言った。開国どころか、鎖国同様になつて、国民は外部の情報から遮断されて、いのように操られていたのである。戦況は乱れ、神風特攻隊は、今で言う自爆テロであった。日本は一億総玉砕をさち上げ、氣迫でアメリカに勝負しようと思つたが妄想に過ぎなかった。一歩手前で踏みとどまって、幸いにも、アメリカ連合軍の軍門に下つた。しかし、国は焦土と化した。東京大空襲を自ら体験した、わが「淵」の同人の我孫子十字氏の詠んだ歌は凄い。

煙より出で来煙の中へ往ぬ乳呑み子

抱へ正氣なき母

川の面に屍を残し人々は己が身す

らも守りかねたる

欧米の政治、経済、文化、人種、状況から、全くつんぼ機軸に置かれていた日本の国民には、上陸してきたヤンキーを見て、何を食って

意気たるや察して余りある。

ところが、である。深く都に来て学問の府たる大学を目指して聞いてみれば、未だに戦国時代の天下盗りみたいな話をしている、今思えばばかばかしい話ではある。しかし、当時はこれを真に受けていたものだ。下つて我々の時代ですら、そうした思想の残骸は残っていた。天下を取って何をするかの問題意識に欠けていた。貧乏は嫌だ、貧乏から這い上がって、自分だけは富を蓄え贅沢三昧の暮らしをしたいという渴望に燃えていた。ヤミが横行し、官吏志望の学徒たちは、立身出世のみを志し、高邁な理念に欠けていたのである。

戦後の混乱期、ろくろく勉強もしない分際で当時、幅を利かしていた弁論部の部長たちが大言壮語して、キャンペーンで大声を出して怒鳴っていた光景がしばしばであった。街宣車の訓練みたいなことをして、得意然としていた。政治家は雄弁家でなければ、仕事にならない。

そんな連中はその後において赤いじゅうたんの upper 闊歩し、隙あらば國民の税金を合法的に最大限、掠め取るうとして利権に染まっていたのである。一旦、味を占めてしまうと忘れられないのが人間の性である。当時の学生がその後の僅かな天下を取って、長いことふんぞり返っていた代議士もいたが、この間の選挙で政権交代がようやく実現した。旧来の自民党議員の多くが、民主党躍進の選挙で見事落選、今は失業の身である。代議士も落選すればただの人間である。威張っていただけに頭を下げることを知らないから、悪い癖が身について墜落れていくと始末が悪い。注意することも出来ないし、誰からも相手にされなくなつて、自分で気がついたころは孤独に苛まれ自閉症にかかる人も少なくない。手段を選ばなくなつてくると、弁護士くずれと一緒である。

う時とか、特に大衆の面前ではよくあるかも知れない。世を拾める理念について大隈重信や、高田早苗がどんな趣旨で云つたのか定かでないが、北沢新次郎が言つた天下盗りの弁はいささか田舎臭く野暮つたい気がしてならない。

大隈講堂の隣りに大隈会館と、そこから東へむ広々とした大隈庭園があつたが、思ひ出として今も一幅の絵のような風景にうつっている。木造平屋建ての瀟洒な会館は趣が優雅であり、出入りする多くの関係者に好まれていたが、その後、会館はあえ無く取り壊されて今は面影すらない。内容は二の次で、でかくて贅沢な箱物ブームに学校施設が翻弄された。母校も例外ではなかつた。大隈会館と庭園の一部は取り壊されて、代わりにリリカル・ロイヤル・ホテルが大きく建つていて、広い庭園はそのまま残つていふと思ふが、雰囲気は衰つてしまひ、文学的

な趣はなくなつてしまつた。かつて存在していた木造平屋造りの大隈会

多少の理屈を付けさえすれば、後は大声を出した奴が勝つという野暮で単純な考え方で発声の練習をしていた。頭よりも先ず体力増強ということで運動部員もこれに加わつた。学園紛争のときなどは、どつちかずつ狩り出される。理念とする高邁な志は二の次の印象であつた。戦後の復興期でもあつて、幼稚な考え方が普通だつたようだ。

飲まず食わずの時代で、食べるだけで精一杯の貧しい時代だつた。一億玉碎、長いこと軍人支配と主導の政治に飼いならされてきただけに、文明開化の明治のときと同じように、未知蒙昧な民衆がたむろする社会だつたから致し方ない。すぐに洗脳されていく癖があつた。しかし現在のように教育もいきわたり、民主主義の到来と普及で、政治意識高められた選挙制度で民主主義が行きわたつていふと、大い声だけで民衆を制するわけにはいかないが、声がかいと得をするという一面は、議論をしま

館の正面玄関を入ると、正面の壁に會津八一が言つた言葉と見事な書が、縁縁に収めてかか

### 道遥一世之上 睥睨天下之間

その意味合ひは、言葉そのものの通りで簡潔明瞭である。母校の建学精神の理想にあこがれて、青雲の志を以て、全国から集まつてくる学生諸君に大きな希望を持たせるに充分であり、高邁な理念を以て学徒の気概を鼓舞するに充分なものであつた。かつては私自身も大いに触

登された書でもあつた。今回、冒頭に掲げた會津八一先生の揮毫はま新しいが、本物は目焼けてくすんで色あせており、それがかえつて歴史を物語つて重厚味に溢れている。會津先生は、先輩に大学の創立者の大隈重信や、第二代目学長の高田早苗を見て

きているはずである。二人とも文明開化の動乱期に生死をかけて戦ってきた人物である。その偉業たえてか、二人とも仰々しい銅像が建つていて、学園を睥みつけている。しかし野暮っぽい話は先刻のように聞き及ぶが、大した言葉も書も残していない。早稲田の杜の天下は取つたかもしれないが、それ以上のものではない。別に天下をとつたにしても、たかだかこの狭い日本のことである。早稲田から散つていった学生諸君は星の数ほどあるが、残念ながら古人に類してその名を青史に千載列するような人はあまり見かけない。記憶にも浮かんでこない。比べる必要も無いが、八一先生に関する評価はまちまちであり、しかも評価の良し悪しは多く、又差が激しいのである。大樹に当る風雪は、概ね厳しいのが世の常である。しかし、没して半世紀たった今、その人となりが大きく慕われていることも事実である。

最近のロシアの石油事情は、その後の世界経済の回復につれて顕著な改善を見せている。石川先生の興味深いお話の中にもあつた通り、ロシアは旧ソ連時代の一九九一年まで原油輸出で世界一位だった。ソ連崩壊による経済混乱で生産、輸出とも最悪に落ち込んでいた。二〇〇〇年に大統領に就任したプーチンが大号令をかけて、石油生産に乗り出して凋落した経済を再生させるべく、そのための原資を稼ぐ政策をとつて出た。古い石油設備の改善と生産性向上をはかり、加えて新規に油田の開発を加速させるよう政策転換をはかった。ロシアがこうした政策を積極的に推し進めている理由の一つに、ロシア政府の財政の立て直しがある。世界の金融市場を襲った金融危機によって、ソ連の経済はガタガタになつてしまった。危機対策のため多額の支出を迫られているため、石

#### \* ロシアの石油事情

遠なことを以てして震えがくる。八一の奇人、変人の言動の評価のなかには、既に八一が、相手を見抜いた慧眼の結果とも考えられる。比較は適切ではないかもしれないが、八一先生は孝者、教育者、芸術家として、二人とは比較にならない養義に恵まれ、豪快な気迫、風格と共にスタイルの大きい、しかも品性に満ちた人物であつたことの方がうかがえる。今日の文明の進歩と国際化、世界化の波に現れる今日を大観すると、思慮の深さは、人類の行く末を見抜いた至言というべきである。母校が生んだ異才である。今回、その揮毫のあとを吟味し載せた次第である。私はそう読んでいる。

「一世の上を逍遙し天地の間を睥睨す」

油関連輸出に力を入れる緊急の必要性が求められている。こうして二〇〇六年度の石油の生産は長期的に回復の兆しを見せた。原油、石油製品の輸出量は三億二千五百万トン、サウジアラビアは四億二千万トンと、約一億トンの差があつたが、二〇〇九年は後半から年にはサウジアラビアを抜いて世界トップの座につく可能性が大きくなつてきた。

ロシア政府にとっては現在、歳入の約四割を資源輸出でまかなつている。原油及び石油関連製品の輸出増大は、歳入増に直結しているので、意欲的である。今まで世界の石油事情は、石油輸出機構（OPEC）に左右されてきた。湾岸戦争以来、世界経済はOPECの原油価格の市場操作で翻弄されてきた。しかし、ここに来て世界は先進諸国を初めとして石油燃料による地球温暖化への影響を懸念する動きとなつて、代替エネルギー開発にも加速がかつている。加えてロシアによる原油生産力のアップは、

石油事情にもこれから先、世界の市場において微妙な影響を及ぼして行くだろう。こうした中、技術革新に伴う経済発展の道は未来に亘って永々と続いてゆくだろう。新興国の馬力も、これからつけてこようとしている。エネルギーを始めとして色々な資源を有する国々は、それを国力の背景と武器にして世界経済の舞台に躍り出てくる。

中国のように十三億の人口の生活水準を押し上げていくには、将来にかけて膨大なエネルギーを消費することにもなる。早くからその戦略的布陣は政府によって、国策として打たれてきている。世界的に熾烈な競争と、資源獲得の外交戦略も加わり、マーケットは複雑な様相で予断を許さない。日本も資源政策を抜本的に検討し、経済運営を積極的に図っていくべきである。

\* NYの株式市場堅調

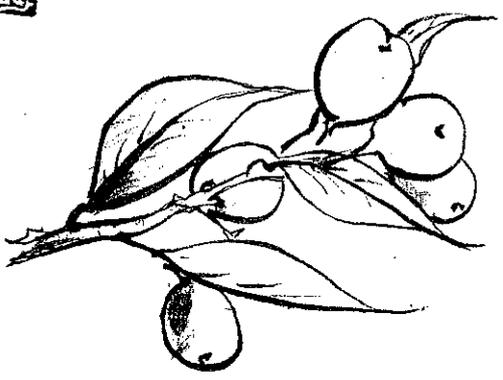
NY株式市場が一万ドル台を回復したことに象徴されるように、今、新興国を始め世界の株式相場が上昇基調を強めていることは世界経済の動向を見据えて好ましい傾向であります。地球全体の経済膨張を占うと、好悪両面が指摘されますが、戦費に向けられる膨大な資金が平和時の産業福祉に回っていくだけでも、経済の質的内容が違ってくる。核兵器廃絶に向けた国際社会の大きなうねり、そして軍縮を総括して推進してゆくことは、地域の経済隔差を是正し、紛争地域の消滅につながってゆきます。

世界の株式市場がリーマン・ショック後の二月につけた底値から、一・五倍にまで上昇し、主要五十二市場の株式の時価総額は四五兆ドル、日本円にして約四〇九〇兆円に達したと報じられています。これはリーマン・ショック以前前の水準に近づいたこととなります。

二月末には二八・七兆ドルでしたが、十月十

六日時点では四四兆八〇〇〇億ドルといわれています。ブラジル、インド、イギリスなども戻り高値を更新しています。これに比べ日本の株式市場は約三割の増加にとどまり、その後進性は如実です。証券市場の活性化への努力が欠けています。規制の強化ばかりに目を奪われ、魅力を失った市場に生きた資金の流入が閉ざされています。

一例では値のつかない株式が多く散見され、買って値がつくと意図的に値をつけたといて監視委員会なる人物から目をつけられるそうです。しかも一〇〇〇株程度の商いだそうです。こうした人物を雇って高い給料を払っています。識者による証者方が国益を損ねているのです。識者による証券市場の根本的な改革、改善策をねって、他国に負けない活気ある東京証券市場を築き挙げていってもらいたいと熱望します。



作品 関根常雄 樹

### 後記随想

前号の後記随想に続いて、私が平凡に読んだ和歌が未だ続いておりますが、友達に尋ねたところ、和歌は日本古来の伝統的知性の現れであり、世界に誇る文化だから紙面が許すかぎり大いに読ませてもらいたいとの一方的ご託宣でした。言われることは尤もなことですが、果たして私と関係付けていゝものやら戸惑った次第です。が、載せてみることにしました。

ところで先日、短歌研究社からご連絡が来て、二〇一〇年短歌年鑑に私の作品を載せさせて頂いたとの嬉しい連絡がありました。昨年、連続く快拳？なんて思っておりますが、高木新一郎君ではありませんが勲二等瑞宝章を首から提げている気持ちになりましたが、勲章はそんなに重い物でもありません。大体、大学教授は公立だと勲二等、私立だと三等と相場が決まっています。高木さんの勲章は立派で、社会に貢献した足跡を以てして明々白々で、大

いに誇れるものです。大内先生の随筆、名譽教授で勲章に關することが興味深く昭和經濟で讀んだことがあります。それからすれば、短歌研究社発行の年鑑の、こちらのほうが重くて品格があるかもしれないと勝手に解釈しています。

昔、結婚の仲人をしてくださった日本經濟新聞の萬直次社長は、若者の不肖のことを人さまにいつも「僕の友人で」と紹介してくださいました。勲章は金錢に代えられないものですが、一般論として金に困ったときに金に代えられるものだらうかという話になりました。世の中、マインナスに考えられない限り、全てお金に換算して価値を決めることになっています。二人で話し合っていたときに、幾らで売れるもんかなということになって、好奇心からそのとき淺草の骨董商の百万ドルに關いたことがありました。自宅応接までくつろいで居た萬さんは、渋い大島紬

の和服を着て、胡坐をかいて深いソファに沈んでいました。小柄なのですぐソファに転がり込んでしまふのです。色々談笑に時間をすごし、勉強にもなっています。今となつては思い出深いものとなつてしまいました。

先だつて銀座の地下鉄ホームで電車を待つていたときに、向こうからやってくる派手な格好をした年配の紳士を見かけました。紳士は胸に誇らしく、沢山の勲章を胸一杯にぶら下げていました。この人は、自分の一生は勲章のために生きてきたと言っているように思えました。野暮な話になつて済ませんが、勲章を辞退した人は沢山います。福澤諭吉、夏目漱石など、氷山の一角であります。近くには当会の機関紙昭和經濟に巻頭隨筆を經濟していた大内義一先生も、叙勲を辞退されています。勲章をもらうほど國家に尽くしたとは思つていないし、勲章をもらつて將來なにかの負目や、負担を感じて暮らすのは御免だし、國家に世話になる

雨のみにもしみける  
あじさいの色濃くなりておくゆかし日ごとの  
りの哲學の道

きのふけふ変はる街並みのきざはしく銀座界隈の栄えうつして

からかきをさして芸妓の宵すがた夕立あとの

加茂川の橋

宴席にむかふ二人の芸妓行く夕立あとの京の

待合

街をいく四人にひとりば携帯をかけたつ時を

かせぎいくなり

こいびとに携帯をかけ約束の夕焼け雲の空を

おほひて

携帯のむこふに好きな人の声ときめきかはす

逢ふ瀬たのしき

死にまさる世に耐えがたきものはなしかくし

て生きむ先を目ざして

人と世に別れを告げて黄泉に立つ人に告げな

ん生を生かせと

ホームレスと各階層の人ありて己れみまして

生くもよしかな

銀座にてさかえる白いはらの店歴史と人のす

ぐるあかに

銀座にてむと瀬ちかくの道のりをひたすら勤

む白いはらかな

人生の喜怒哀楽をおほらかにやさしくいき

よりのしまむ

踊り子に真紅のばらを手わたしてほほえみか

へすまなこやさしき

あでやかに機敏におどる踊り子のフロアに咲

きし赤きバラかな

あざくさのまつりの神輿にかたをいれいなせ

なこえの前とらしくに

火の海にまよふ人らのさまよひてまるこげと

なり山とつまるる

わがまちに三社祭のみこしきぬいなせな声に

ふるひたつなり

東京と水戸で罹災し火の中をくぐりて今にあ

るは奇しきも

BS かなりをたててよのそらをひくくどびゆ

きあとのひのうみ

ただかいのてきはそらよりひのたまをあびせ

ふらせてやきころさんと

ててははのわれをたすけてひのなかをみずう

みちかくあなにもぐれり

きらめきの星の上ぞらをあざむきて灯りをと

もすモナルトの夜

恋しきのつりてくれほいたずらにうらめし

くもふふるさとの山。

サングライム・ローン問題に翻弄す世界経済の

なぞの枠組み

経済の落ち込みに浮く長者もの弱肉強食のお

きて如美に

わが罪を背負ひ十字架にかかる主のあがない

熱きことを覚へよ

あさにけに祈りにささぐさまさまの願ひをこ

めて妻とあはせし

しからみを断ちて教会にやすらぎをこふも群

れびとのうごめきあるは

十字架の主をあほぎみて共にいくわれにうれ

ひと迷ひなきかな

艱難は忍耐を生み練達をえて希望へとみちび

きにけり

世の人におびえて先を見失ひちまたにあまた

人のあふる日

新宿に浅草にいまホームレスてふ人あまたい

でて無なしき

食べ物之余る世なれど恥なきの苦楽の見分け

つげがたき世に

漱石の知に働けば角が立ついわれに気づく世

のならいとも

おほらかに一世の上をしようよふす八一の思

ひ類ひなきなり

あめつちのまをへいげいし自若たり八一のい

まにおもいおよびぬ

ニュートンの万有引力におさまりし宇宙のは

てに思ひはせしも

ひろがりの星のみそらのはてのはてなほその

はてのさきのはてとは

有史來てんこつ躍如のダヴィンチも十字架の  
主に従ひ召さる

山上の垂訓するマタイ五章めくる聖書にひ  
かる夏の日

柔和なり人となりしをあまたみて世をわたり  
ゆく幸いなりし

加賀野井の福江牧師のたよりきぬ土地のやき  
いも別の便にて

聖堂にえがく最後の審判に有象無象のやから  
えがきぬ

キリストをかこむ最後の晚餐にユダのきわだ  
ち世にも多きに

シムステイヌ礼拝堂の大壁画最後の審判にた  
てるキリスト

悲しみにひかれてあほぐ星ぞらの果てなきは  
しに神のまします

天然の力をおさめ神の手にゆだねてうごくお  
きてかじこし

目に見えぬものを信じて幸いなり神のめぐみ  
きたをさしゆく

に在りしわれかな

わが店に出入りのなかにいやらしきおなごど  
やからいるはおぞまし

約束をはたさす嘘のかたまりにうごめき社会  
をみだすやから

生まれつきあらしき気性のわがままにアラブ  
スーツに身をつむ女

おたやかに金を返してもらふかなアラブス  
ーツに飾るひとから

萎縮する世界経済にGMの再生なるや否や問  
わらる

無公害電気自動車の将来に曙光さして洋々た  
りし

ニューヨーク市場の結果を報道す朝の明子の  
すがたかじこし

持ち前の品をしめしてたぐひなし明子の朝の  
テレビニュースに

れいめいのまさおの空のかがやきに真鶴一羽  
きたをさしゆく

さよなかのほしの光をおほきみてはてなき空

のはてを見んとて  
エコカーと称し普及をうながして原油高騰の  
害をなくさん

アメリカの栄えを示すGMの破産と再生のド  
ラマ始まる

世の中のことなぞ全てみじんにて無窮のそら  
をあほぐ我なり

さはきなり我が身辺にさわぎたつ些細なこと  
もきにかかりけり

世の中の激変に克ち王道をゆく我が先に迷ひ  
なきかな

はつなつのみどりかがやくまほろまをみわた  
すやまにもことだちけり

歌のみちども  
ちようちんを下げて源氏の君がいへく人目をさ  
引き継ぎし名門の短歌同人誌八一のもとむ和

つれずれにうきてさまよふ月の夜を聊斎志異  
けて夜這いなるかも

を讀みてすぐる身

十字架の主を仰ぎ見て共にゆく我に迷ひと憂  
ひなきなり

おほらかに一世の上をしようす八一のき  
がいに思ひよせしも

どくだみの間に十字の花きざみそらの星座を  
地にもうつしぬ

しぶぐさの強き雑草の間に生えて白き十字の  
花をかざせり

いにしえの道ある人の教へよし温故知新とは  
よくぞ言ひける

野分きてそらぐも黒くあれまわりいかずちな  
りて地はとどろきぬ

はるきめのふりしきる夜に玉の井をかざし  
ていく永井荷風よ

断腸亭日記にするすそげもののひとの生死の  
さかいあはれに

玉の井ゆ浅草にきぬ言問の橋のたもとにこつ  
む荷風よ

もつこの葉のいちまいの輝きに森羅万象の  
 ことわりを知る  
 神の手にわが身をゆだねことをなすに英  
 知と力うけしに  
 とまとなす胡瓜を植えてはつなつの空は夕日  
 に赤く焼け染む  
 詠むほどに限りなきまを悟りきて思惟をたち  
 きりあほぐ星空

(六月四日記)

昨年六月四日にホーム・ページに近時雑感とし  
 て載せたものですが、漸くその勤めを果たしま  
 した。私の詠歌は之で終わつたわけではありま  
 せん、その後も俳句と同様、立て続けに詠ん  
 でおります。大脳を刺激して、若さを取り戻す  
 が故であります。

### 表紙絵のことば 港の見える丘

関根常雄

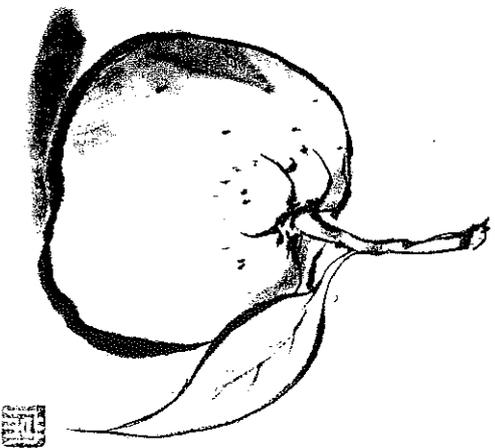
十一月二十三日、勤労感謝の日。私共は勤労  
 感謝の日には、これまで一度も休みを取る事が  
 なかったのです。よそ事の休日のように思っ  
 っていました。家内とそんな会話をしているう  
 ちに、今年からこの日を我家も休日によようと  
 そんな事から、第一回記念として、昭和経済会  
 の表紙絵を描こうと、家内も賛同してくれたの  
 で、即、実行することになりました。思い起こせ  
 が、戦後間もない頃に、ラジオから流れてきた  
 歌声に「港みなとが見える丘」の名のメロディーで、  
 何とも気怠い歌声でしたがどことなく魅かれ  
 て聴きほれた流行歌がありました。  
 それは、戦後間もない混乱の静まらない時期  
 でしたので、癒しを感じさせられた曲でした。  
 この歌は、歌手の平野愛子さんが歌っています

だ。「歌詞」は「あなたと二人で来た丘は港  
 が見える丘 色あせた桜だだ一つ 寂しく咲  
 いていた」と歌い始め、なんとなく色っぽく悩  
 ましい限りでした。私たち二人にはなぜか懐し  
 く思い出され、「港の見える丘」に行こうと云  
 う事になったのです。

その港は一体どこにあるのか。当時、私は田  
 舎に居りましたので、いろいろと勝手な想像を  
 しておりました。「横浜港」かな？、「赤いク  
 ヅの少女」かなと連想して、そのロマンを楽し  
 んだ思い出があります。

二十三日は天候にめぐまれ、早速元町の中華  
 街で食事を取り、今日は、のんびり行こうと、  
 港の見える丘の裏側から、代官坂を登り、そし  
 て額坂と廻り、長い、長い石段をのぼり、よう  
 やく頂上に着きました。エリスマン邸のある所  
 です。

一九二六年頃「現代建築の父」と呼ばれた  
 A・レモソンドの設計によるもので、日本建築



作品 関根常雄

界に大きな影響を与えたそうです。横浜の大きな絹糸貿易商シムール・グナナ商会の支配人であったエリスマン氏の私邸として、大正十五年に、山手二三番地に建築されたものを、現在元の元町公園に平成二年に移築復元されたそうです。山手通りに面していて、周辺には、歴史的建造物と共に、横浜の街が一望でき、山手を象徴する絶好の景観をつくりだしています。しばらく周辺を散策し、左側に外人墓地を見ながら下り、港の見える丘に着きました。公園の展望台からの眺めは、横浜随一の名前のとおり、横浜の港街や、ベイブリッジ、そしてランドマーク・タワーを一望でき、素晴らし

い眺めで東の間の一日でした。



梅 関根常雄



新年おめでとーございます。

初春の空は大きく澄み渡り富士の嶺  
高くそびゆ大和は

葉ぼたんに松と白うめ万両と水仙を  
活け春をむかへり

元旦

社団法人昭和経済会  
理事長 佐々木誠吾

平成二十年 十二月 二十六日 印刷  
平成二十年 一月 一日 発行  
第六十一卷 第二号  
昭和 経済 第二号  
編集人 佐々木 誠 吾  
兼発行人  
印刷所 日本印刷株式会社  
発行所 昭和 経済 会  
事務所 〒104-0086 東京都中央区八洲二丁目二  
TEL (六八二) 六〇〇〇番  
FAX (三三七) 三〇四番  
E-mail info@showa-ecorp.jp  
http://www.showa-ecorp.jp/

〒100-0006 千代田区有楽町一の十二の一  
新有楽町ビル十階十三号  
TEL 〇三三二四一六〇八一

弁護士 富田 純 司

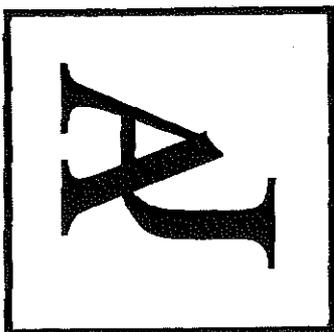
平和と自由を標榜する会の発展は  
世界につながる

〒110-0066 東京都台東区台東三丁目一八一三  
SECビル  
TEL 〇三三六三二二七二 (大代表)  
FAX 〇三三三八三三二四三三〇

代表取締役社長 鈴木 孝 夫

SECビルタワー株式会社

超安全  
エレベーターの新設・リニューアル工事には  
ダブルレキ式巻上機 採用数量No.314458号



Japan Asia Securities Co., Ltd.  
日本アジア証券株式会社  
〒103-0014  
東京都中央区日本橋蛸割町1-7-9  
Tel: 03 3668 5600

〒103-0013 中央区日本橋人形町二ノ二六ノ八  
サンマルビル十階  
TEL 〇三三六六一七七〇一

税理士法人  
日本橋税経センター  
税理士 板橋 則 雄

ADVERTISING  
SALES PROMOTION  
PLANNING  
DESIGN

T O K Y O S E N K O

代表取締役会長

鈴木 喜佐人

Kisato Suzuki

AD AGENCY 広告・販売促進/企画・制作

株式会社 東京宣伝

〒162-0844  
東京都新宿区布台八幡町1番地 新高ビル9F  
TEL 03-3267-5531 FAX 03-3267-5534  
HP 090-2143-7111  
e-mail: suzuki@tokyosenko.co.jp

頭金<sup>0円</sup>(公的資金利用)の賃貸住宅建設  
35年間一括借上げ方式  
先が見える安定収入で安心  
どんな委細な事でもご相談下さい。

アサヒ・エコーホームジョン

企画・設計・施工 (一般建築士事務所)  
東京都 医師間同組合連合会 指定

会長 中村 節 (理華)  
社長 中村 誠

〒105-0004  
東京都港区新橋4-29-6 寺田ビル6F  
TEL 03-3436-0058(代) FAX 03-3436-6725  
ホームページ: <http://www.asahicoop.com>

LOHASMISSION  
ロハスミツジョン株式会社

代表取締役社長

隅田 直子

email: [sumida@lohasmission.com](mailto:sumida@lohasmission.com)

本社 〒130-0015 東京都墨田区横網 1-2-2 8  
電話 03-5819-6610 FAX 03-5819-6620  
<http://www.lohasmission.com>

**中央建設はこんな会社です**

**謹賀新年**

創立60年の今年は創立時の気概と夢を思い起こし全社全員が揃ってお客様の夢の実現に誠意と技術と安心でできる建物造りでお応えします

取締役社長 清水 侃治  
一級建築士

ホームページをご覧いただけます  
<http://www.chuou-kensetu.co.jp>

**中央建設株式会社**

〒102-0073 東京都千代田区九段北2-3-2  
☎(03)3261-4201(代)

*Rocky*  
ランコ 岩本

415 E. 37th St. Apt 14F  
New York, NY 10016

短歌同人誌  
**三浦**

一九五七年創刊

歌人、會津八一の系譜

事務局 中央区八重洲二十二  
電話 〇三六八二〇六二二  
代表 佐々木誠吾

**NPC 日本印刷株式会社**

お客様とともに、印刷の一步先を考える

営業本部  
〒113 0034 東京都文京区湯島三〇-1-1

本社  
〒101 0021 東京都千代田区外神田六-1-13  
TEL 〇三三八三三三六九七一

**謹賀新年**

**プロジェクト銀座松屋通り店**

中央区銀座三十七番三  
電話 三五三三〇二〇一

株式会社 谷口コーポレーション  
代表取締役会長 谷口 八 稜

中央区銀座三十七番二  
電話 三五六四一九四一

辯護士 **成田 慎治**

新年あけまして  
おめでとございませう

〒100 東京都新宿区内藤町1番地  
内藤町三丁目6番  
成田 慎治 法律事務所  
TEL 03-33668150 9221  
FAX 03-33668159 923  
〒100 東京都千代田区千代田2-2-1  
TEL 03-3261-4201

**漢詩を作ろう (漢詩実作教室)**

**野田 尚**

昭和経済会・常任理事

最初はどっつきにくいのが、日本語のルーツに触れるのは楽しいことです。漢詩は短いので、文法・文脈の説明と実作の指導を受ければ間もなく出来るようになり、私も伊森東風先生のもとで指導を受けています。原則として第2日曜日午後1時から3時間、千駄ヶ谷駅近くで指導があります。

連絡先  
(野田) 船橋市西船3-6-8  
TEL : 047-431-5339  
(伊森) TEL : 03-3384-0287

株式会社 井浦コミュニケーションセンター  
人財育成コンサルタント  
サン・レイキヒリックスマー

〒133 0061 江戸川区北小岩六-1-01-13  
サエルビルノザワ三〇一  
電話 (三六七二) 三六〇〇  
FAX (三六七二) 三五九九

代表取締役 **井浦 康之** (理事)

